

Part 1 基本情報

1. シリアプロフィール

- (1) 正式名称 (和文) シリア・アラブ共和国
(英文) Syrian Arab Republic
- (2) 政体 共和制
- (3) 首都 ダマスカス
- (4) 面積 18万5000平方km(日本の約半分)
- (5) 人口 2,252万人(09年世界銀行)
- (6) 民族 アラブ人(90%)、ほかアルメニア人、クルド人、パレスチナ人など
- (7) 言語 公用語: アラビア語
- (8) 宗教 イスラム教(スンニー派74%・アラウィ派等16%)90%、キリスト教10%
- (9) 略史 紀元前4世紀、セム人の王国をアレキサンダー大王が占領。のちローマ帝国の支配下に入り、ダマスカス、アレppoなどの都市にヘレニズム文化が開花する。その後7世紀に、メッカでイスラム教が興るとともにアラブ人がシリア一帯の支配権を握り、661年にウマイヤ朝が成立。ダマスカスを、イスラム帝国の首都とした。この地はその後、イスラム思想の中心地として栄えていくこととなる。後にアッバース朝、マムルーク朝へと支配権が移り、16世紀から1918年までオスマン・トルコの支配を受ける。第一次世界大戦後の1920年、フランスの委託統治領となり、1946年独立。
- (10) 在留日本人 69人(2011年5月)
- (11) 気候 内陸部の内陸性気候と地中海沿岸の地中海性気候とに分けられる。首都ダマスカスの年間平均気温は摂氏16.7 で、夏場は40 近くまで冬場は0 前後になることもある。アレppoなど北部周辺の冬場の寒さはさらに厳しい。冬場を中心に、ダマスカスでは年間200mm前後の雨が降る。

[参考]
「国別協力情報ファイル」国際協力機構
「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要(シリア事務所)

住所 : 1st Floor, Barakat building, No.10, Ibn Al Haytham Str., Abou Rommaneh,
Damascus, Syria

郵便物宛先 : JICA Syria Office, P.O.BOX 10012, Damascus, SYRIA

連絡先 : 国番号 : 963

地域番号 : 011

電話 : +963-11-3339359/3336858

FAX : +963-11-3334834

時間外・休日などの緊急連絡先: 現在、日本人職員退避中のためなし

URL : <http://www.jica.go.jp/syria/index.html>

E-mail : sr_oso_rep@jica.go.jp

執務時間 : 8:30 ~ 16:30 (昼休み13:00 ~ 14:00)

休日 : 「(4)官公庁の祝日」に準じる。

事務所までの交通:

【空港から】

空港到着ロビーにプリペイドタクシーカウンターがある。市内各地までの料金は 1,500 シリアポンド(約 30 米ドル)で、空港カウンターで前払いする。カウンタースタッフは英語を話せるが、ドライバーの多くは英語を話せたいため、行き先についてカウンタースタッフからドライバーに説明してもらおうと良い。ただし、JICA 事務所の場所は知られていないため、事務所近隣にある UAE 大使館、カタール大使館(それでも駄目な場合はサウジアラビア大使館)を行き先として指定すると良い。

【空港以外から】

タクシーが安く便利だが、英語の通じるドライバーは少ない。地名、行き先が有名でわかりやすい場合を除き、短期の滞在者には使いにくい。JICA 事務所に行く場合は、近所の目印となる施設(サウジアラビア大使館が一番有名:「サファラサウジ」で通じる)まで行ってもらおうと良い。市内各所からは、50 シリアポンド(SP)程度。

(2) JICA 事務所周辺地図



(3) 日本との時差 サマータイム

日本との時差 : - 7時間

サマータイム : 3月下旬から10月下旬まで。毎年、政府が期間を決定し、一週間ほど前に一般に告知される。日本との時差は-6時間となる。

(4) 祝日 (2011年)

下記祝日と金曜日、土曜日。

1月 2日	年始休暇
2月15日	預言者聖誕祭
3月 8日	革命独立記念日
4月17日	国際日(ナショナル・デー)

4月24日	イースター(カトリック、オーソドックス)
5月 1日	メーデー
8月30日～9月 1日	ラマダン明け大祭
10月 6日	戦勝記念日
11月 6日～ 9日	犠牲祭
12月25日	クリスマス
12月29日	年末休暇

調査団の派遣を避けるべき時期(2011年)

- ・8月27日～9月3日のラマダン明け大祭の週
- ・11月4日～11月12日の犠牲祭の週

これら期間中は官庁のみならず商店も多く閉まるため生活面でも不便

- ・8月1日～8月29日のラマダン期間

ラマダン期間中は、官庁が午前中のみとなっており、調査効率が落ちる点は留意

- (5) ビジネスアワー
- 官庁 8:00～15:30(金土休み、昼休み無)
 銀行 9:00～16:00(金土休みであるが、土曜に開いているところもある、昼休み無)
 商店(雑貨屋を除く一般商店) 10:30～20:00(金曜日はほとんどの店が休業)
 商店(食品雑貨屋) 10:00～21:00(金曜日でも開いている店もある)
 * イスラム教地区の商店は金曜、キリスト教地区は日曜が休業となる。レストラン、カフェは金曜、日曜でも開いていて、深夜 1:00 ごろまで営業している。
- (6) 言語
- 業務: 英語の通用度は高くなく、必要に応じて通訳を雇った方が良い。
 ホテル、買い物、食事: 高級ホテルや高級レストランでは英語が通用するが、一般商店などでは、英語はほとんど通じず、簡単なアラビア語を覚えていると便利。
- (7) 通貨
- 通貨: シリアポンド(L.S.または S.P.)
- (8) 通貨レート
- 1 シリアポンド = 1.650 円 (2011 年 9 月現在)
- (9) 関係機関
- [在外日本関係機関]
- 日本大使館
 住所 : No.3537 Sharkasiya, Aljala' Street, Abou Rommaneh, Damascus,
 Syrian Arab Republic (B.P. 3366)
 電話 : 011-3338273
- [シリアの関係官公庁]
- Ministry of Culture
 住所: アブルマーニ
 URL: <http://www.culture-sy.org>
 - Ministry of Education
 住所: ジスル・アピアッド
 URL: <http://www.syrianeducation.org>
 - Ministry of Health
 住所: ハムラ

- Ministry of Housing & Construction
住所: メイサルーンストリート
- Ministry of Higher Education
住所: ウマイヤドスクエア
- Ministry of Local Administration
住所: カファルスーサー
- Ministry of State for Environment
住所: メイサルーンストリート
- Ministry of Tourism
住所: ビクトリア地区
URL: <http://www.syriatourism.org>
- Ministry of Transportation
住所: アブルマーニ
URL: <http://www.mot.gov.sy>
- Planning and International Cooperation Commission
住所: イブン・アルナース

(10) 有用サイト <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html> (外務省「各国・地域情勢」)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html> (外務省「渡航関連情報」)

Part 2 生活情報

「生活情報」は特に記載のない限り、JICA事務所のある都市の情報を中心に掲載しています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

シリアの高級、中級ホテルでは、英語が通じる。春から秋にかけては観光客などで込み合うため、予約が必要である。赴任当初はホテルから徒歩で行動できるように、街の中心部にあるホテルを選ぶとよい。簡易ホテルは、給湯時間に制限があったりエアコンがきかなかったりなど、快適ではない場合が多い。

シリアでは、ホテルのランクにかかわらず、居住許可証(イカマ)のない外国人はすべて米ドル(またはユーロ)払いとなる。シリアポンドで払うには、出入国査証とともに1年間有効の滞在証の取得が必要となる。高級ホテルでは、クレジットカードが利用可能である。

Yellow Page

ダマスカス市内の主な高級ホテルは、次のとおりである(詳細はPart3イエローページを参照)。

- ・Dedeman Hotel(デデマン・ホテル)(旧メリディアン・ホテル)
- ・Cham Palace Hotel(シャーム・パレス・ホテル)
- ・Sheraton Damascus Hotel(シェラトン・ホテル)
- ・Four Seasons Hotel(フォーシーズンズ・ホテル)

キッチン付のホテルとしては、Royal Suite(ロイヤルスイート)があるが、1月以上滞在するのであれば、物件にも拠るが、アパートを借りた方が安価である。

1-2 住宅事情

日本人駐在員の多くは、JICA事務所や日本大使館が立地するアブルマーニ地区か、その周辺のマルキ地区、ムハジリン地区、あるいは日本大使公邸のあるダマスカス西郊の新興住宅地(メッセ地区、特に同地区西部)に集中して住んでいる。前者は大きな公園やレストラン、商店街にも近くて便利であるが、周辺の建物は老朽化しつつある。後者は、ダマスカス中心部から西にある新興高級住宅街で、新しい建物が多いが、中心部から距離があり(車で15-20分ほど)、自家用車を持っていないと通勤、通学は不便である。

アパートの1戸あたりの居住面積は広く、ベランダを除いて150~250㎡である。外国人向け賃貸住宅の家賃は、交渉により寝具、タンス、食卓セット、応接セットなどのほか、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、扇風機(またはエアコン)などの家電製品や、ガスレンジ、鍋、食器などの台所用品を含めた契約にすることができる。ただし、それらの品質は良いものばかりとは限らない。

家賃の高低は、周辺の環境、居住面積の広さ、住宅の新旧や状態、家具設備の内容、電話の有無などによって異なる。首都の相場は高く、JICA事務所や日本大使館を中心とする地区にある住宅は、家賃が1年間で2万~3万米ドルとな

っている。

高級アパートでは、セントラルヒーティングが備えられている。

賃貸用の、広い庭の付いた独立家屋はほとんどない。下宿は学生が利用し、家主宅の1部屋を借り、台所、風呂、トイレなどを家主と共用する場合が多い。大半は賄いなしだが、自炊ができるところもある。

1-3 住宅の探し方

不動産会社は複数あり、訪ねるとすぐに物件を見せてくれる。納得できる住宅が見つかるまで、数多くの物件を見て慎重に決めるとよい。契約が成立するまで手数料は不要である。

不動産会社を通して契約が成立した場合は、家主と借り主のそれぞれが、契約総額の5%ずつを斡旋料として不動産会社に支払うのが通例である。不動産会社の情報に限らず、ほかの日本人の住宅の家主が、何軒も家を持っていることも多いので、知人からの情報にも留意するとよい。

以下の留意点も参考に妥当性を判断する。

1-4 住宅選定上の留意点

現地では、次の条件を備えている住宅を借りるとよい。

- ・治安状況が良好で、子供にも安全な環境。
- ・静かで(繁華街周辺や大きなホテルの近くは夜遅くまで騒音に悩まされる)、車の往来が少ない。
- ・買い物や、通勤、通学に便利。
- ・部屋(特に台所、客間)の数、広さが十分にある。
- ・築後年数が経っていない、もしくは維持・補修が行き届いている。
- ・使用可能な電話が付いている。
- ・夏は涼しく、冬は暖かい物件を選ぶ。したがって、アパートの場合は、冬は寒く、夏は非常に暑くなりがちな最上階は極力避ける。
- ・備えられた家具や家電製品が、きちんと機能している。
- ・セントラルヒーティング、給排水、給湯設備、電気が正常に機能する。
- ・夏季の断水時に備え、容量が十分な貯水タンクがある。
- ・アパートの上のほうの階に住む場合は、エレベーターが付いている。
- ・家主が外国人慣れしていて、入金後でも家具などの足りないものを用意してくれる。
- ・ドアや窓の閉まり具合、トイレの流れ具合、風呂の状態、部屋の明るさなどに支障がない。
- ・安全対策の点から、進入が容易な地階や1階は避ける。

1-5 住宅の契約

1年間契約であることが多い。不動産会社を通じた場合は、担当者立ち会いのもと、契約書を2通作成し、家主が1通、借り主が1通保管する。外国人向け高級アパートは、米ドル契約が一般的である。家賃は、1年分を前払いするのが現地の慣例で、契約後即入居する場合は、契約時に支払うこととなっているが、交渉すれば1-2ヶ月間は猶予してもらえる(その場合は、手付金として1-2か月分の家賃を支払う)。敷金は不要である。契約期間が半年間以下だと家賃が割高になる場合が多く、物件も限られる。最短契約期間は1ヶ月間である。

通常、不動産会社には、仲介手数料として家賃半月分を支払う。

主な家具、プロパンガスのボンベやガスレンジなどを含む台所設備、家電製品は、家主の責任と費用で揃えられる。契約書には家主が備え付けた家具、設備のすべてに関する一覧表を添付するので、契約時まで、あるいは入居前後に、必要なものを揃えてもらうこと。また、借り主があらかじめ家主との間で合意している金額内で家具を立て替えて購入し、あとで費用を請求するケースもある。

安全対策上、入居前に鍵を取り替えてもらう。また、ドアの覗き穴、チェーンロック、地階の場合には窓の鉄格子などを備えてもらうこと。

補修については、契約前にすべての項目を点検する。あとでトラブルを起こさないために、故障や異常の補修は、遅くとも入居までに完了してもらう。家主の誠意にもよるが、入居して家賃の支払いなどが済んでからでは、要求は実行されないことが多い。また、入居後に故障し、明らかにそれが長年使用したことによる老朽化が原因で、修理に多額の支出を要する場合も、家主に費用を負担してもらうことができる。このことは、口頭による合意だけでなく、契約書に定めておいたほうがよい。

契約に際しては、アラビア語と英語を十分に解する信頼できる人物を立会人に立てる。家主の用意するアラビア語による契約書に、借り主側も正確な英文翻訳を付けて、契約内容に誤解がないようにする。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

通常、公共料金は借り主が負担する。電話は2カ月、電気も2カ月、水道は3カ月ごとに不動産会社か家主宛てに請求書が配達されるので、借り主は彼らに現金で支払う。ただし、請求は使用月から2カ月～半年遅れることがあるので、入居後の使用分であることを確認してから支払う。不明な点があれば、不動産会社か家主に請求書を確認してもらうようにする。また、請求書が届かないのに、いきなり電気などを止められてしまうこともあるので、その場合は、家主か各地域の公共料金支払い所に請求書を確認に行く。

水道の断水時間は、前の冬にどれだけ降雨・降雪があったかによって異なる。冬に降水量が少なかった年には、夏季に断水が行われることもある。なお、外国人が借りる家では通常は、貯水タンクが備え付けられており、断水時間中も水を

使うことは可能である。

ガスはプロパンを使用し、ボンベ 1 本は必ず住宅に取り付けられている。このほか、大きな重油タンクが各戸に取り付けられている住居が多く、給油とセントラルヒーティング用に必要な重油代(マゾット代)も借り主が負担することになる。

ゴミは、ナイロン袋に入れてゴミ回収コンテナ(だいたい徒歩圏内で見つかる)に出しておく、ごみ収集車が回収してくれる(回収頻度はほぼ毎日)。シリアでは、分別収集は行われていない。

1-7 家電

(1) 電圧

電圧は 220V、周波数は 50Hz である。日本国内向けの製品(100V)を使用する時は、変圧器が必要である。大型変圧器は現地で手に入るが、小型変圧器は日本から持参したほうがよい。

(2) コンセント、モジュージャックの形

コンセントは丸型ピン 2 本(C 型)で、モジュージャックは日本と同型である。

(3) 家電製品

たいていの家電製品は手に入るが、炊飯器などで種類や品質を重要視する場合は、日本で購入したほうがよい。ただし、変圧機能の付いていない日本製品を使用する場合は、変圧器が必要となる。

また、停電が多く、電圧が安定していないので、安定器(レギュレーター)も用意したほうがよい。大型変圧器、安定器は現地でも購入できる。詳しくは「5-1 家電製品」を参照のこと。

1-8 家具保険

家屋・家具などの保険制度はあるが、ほとんど利用されていない。家主が借り主に保険の加入を要求することもない。

1-9 その他

アパートによって異なるが、エレベーターの使用料や共同階段の清掃代は、全住人で共同負担し、各人が毎月直接、清掃員に支払うことが多い。

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1) 一般事情

夏季が 4～10 月と長いため、夏物衣料を多く用意するとよい。また、冬季は東京の冬と同程度まで冷え込むため、防寒用のコートがあった方がよい。また、冬季には降雨もあるので雨具が必要。

衣料は、品質、デザインを問わなければ、現地でもひととおりのものが入手でき

る。また、スーツなども、デザインにこだわらなければ現地で仕立てることができる。最近ではヨーロッパの有名企業(ベネトン・ステファネル・モーガン等)が進出しており、国際競争に耐えられる製品も増えてきている。値段も日本と変わらない場合が多い。庶民的なシリアの洋服店では安価で購入することができる。ただし、シリア国産の衣料は縫製、仕上げが粗雑で、色落ちが激しい。日本製品に比べてかなり安価であるが、品質を考慮すると買い得とはいえない。また、サイズが日本人の体型に合わない(大きい)ものが多いので、ひととおりの衣料は日本から持参するのが無難である。

子供服は適当なものが見つかりやすい。最近では国産のブランド店などがあり、品質は悪くない。イタリア、フランス、アメリカなどの輸入製品も時折見かける。値段は多少高いが、材質、縫製ともにしっかりしているので勧められる。

(2)日本から持参したほうがよい衣料

夏服と、ブレザー、コートまたはオーバーコートのほか、ジャンパーなどを持参するとよい。真昼と夜間の気温差がかなりあるので、夏季でもカーディガンなどの温度調節ができるものがあると便利である。

下着類は、十分な数量を日本から持参すること。現地では、綿100%の製品は非常に少なく、着心地のよいものが見つからない。特に女性用の下着類は、日本人にはサイズが大きすぎる。パンティーストッキングやソックスも、持参したほうがよい。また、冬はシリアの家は床が石のため冷え込むので、足カバーなどがあるとよい。

革靴、サンダル、運動靴は、多めに持参すること。シリア製品は、日本人には合わず、足が痛くなるものが多い。運動靴は、「アディダス」の靴が出回っており、品質はよい。また、靴クリームやクリーナーなども、合わせて用意したほうがよい。室内履きやサンダルなどはシリア製品で間に合うが、スリッパはない。

その他、日本から持参したほうがよいものは、次のとおりである。

<男性>

日本で着用しているものを持参する。背広(夏物、冬物)、ワイシャツ、ネクタイ(現地でも入手可)、ズボン、サマーセーター、セーター、カーディガン、防寒コート、スポーツウエア、パジャマなど。

<女性>

日本で着用しているものを持参する。通気性のよい夏物を、多めに用意すること。合服は少なくともよい。スーツ、ワンピース、ジャケット、コート、セーター、フリースのトップス、ベスト、ブラウス、トレーナー、Tシャツ、スポーツウエアや水着、旅行に適した衣服など。小物では、防寒用の手袋と、日差しが非常に強いので日よけ帽子、日傘が必要である。なお、ミニスカートや膝上丈のパンツ、袖なしは避けたほうがよい。

<子供>

下着、普段着、外出着、運動着など。また、アメリカン・スクールでは、体育の

時間でも体操着には着替えないため、男女ともに半ズボン、長ズボンで登校するのが一般的なので、半ズボン、長ズボンがたくさんあると便利である。

<乳幼児>

現地では綿 100%のニット地やガーゼ地のような、肌に優しく涼しい素材の製品が入手困難である。おむつやおむつかバー、肌着を中心に、衣類の大半を持参したほうがよい。しよいこなども現地にはないので、必要に応じて持参すること。

(3)現地で調達したほうがよい衣料

該当情報なし。

(4)その他の留意点

買い物用バッグ、旅行用バッグ、パーティー用バッグ、リュックなどの各種袋物を持参すると便利である。

2-2 礼装

(1)パーティー

日本人会主催のパーティーなどがあるが、モーニングなどの礼服は不要である。男性は黒かダークな色のスーツが一般的である。

女性はスーツやワンピースが多い。それに合うフォーマルなアクセサリやハンドバッグなども、忘れずに用意するとよい。

(2)式典

天皇誕生日に、日本大使館主催の祝賀会がある。正月明けには、同じく日本大使主催の新年会が開かれることもある。日本大使館に在留届を出している日本人が招待を受ける。服装は、ダークスーツなどでよく、モーニングは不要である。女性は、スーツかワンピースが一般的。

(3)冠婚葬祭

念のため、黒または地味なネクタイを1本持参するとよい。女性は、黒のフォーマルドレスまたはスーツを1着用意しておくといよい。

(4)その他の留意点

該当情報なし。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1)洗濯

クリーニング店は多数あり、ドライクリーニングやしみ抜きを依頼できる。仕上がりは、よい店も一部見受けられるが、一般的にはあまり期待できない。そのため、クリーニング店は良く選んだ方がよい。中 1～2 営業日で仕上がる。

アイロンは、日本製品やその他の製品が 3,000～4,000 円で販売されている。洗濯機は全自動式と手動絞り式が出回っているが、通常、賃貸住宅の備え付け家具に含まれているので、特に購入する必要はない。洗剤や漂白剤は、国産の

ほかにヨーロッパ製品が豊富に出回っている。ウールや絹製品専用の洗剤もある。

Yellow Page

日本人が利用している主なクリーニング店には、Snow White、Mr. Clean があり、仕上がりも良い(詳細は Part3 イエローページを参照)。

(2) 仕立て、修繕

紳士服、婦人服の仕立て・修繕店がある。ズボンの丈直しから背広の仕立てまで可能であり、廉価である。

(3) 保管

乾燥しているため、特に問題はない。日本と同様に、羊毛製品には「パラゾール」などの衣料用防虫剤を入れて保管し、皮革製品は日陰干ししたあと、専用のクリーナーを使用すること。衣料用防虫剤は、現地でも購入できる。

2-4 美容院、理髪店

美容院は多数ある。料金は地域により多少異なるが、シャンプー・セット付きでカットが 500～1,000 シリアポンド、パーマが 2,000～4,000 シリアポンド、カラーリングが 1,000～2,000 シリアポンド程度である。ホテル内の店は料金が高い。日本やヨーロッパでの流行のスタイルは期待できない。定休日は金曜日である。理髪店も多数あり、料金は 200～700 シリアポンドである。定休日は月曜日。主な美容院と理容店は、次のとおりである。

< 美容院 >

- ・Angels
- ・Jacques Dessange

< 理容店 >

- ・Dedeman Hotel 内の理容店

3. チップ



3-1 チップ事情

(1) 習慣の有無

必ずしもチップ(バクシーシ)を払う必要はないが、上手に使いえば相手の対応はよくなる。ただし、道を教えてくれたり、親切にしてくれたたりした人にお礼にお金を渡したりすることは、かえって失礼になる場合がある。

(2) 各種サービスに対するチップ

タクシーや各種配達などのサービスに対しては、昼間はメーター料金を 5 シリアポンド単位で切り上げて渡す。23:30 以降の夜間は、料金の半分くらいのチップを渡すのが目安である。ただし、夜間のタクシーはメーターを切っている場合が多く、料金はチップ込みの値段を交渉することになる。現地の物価水準に慣れない人に料金を高くいうこともあるが、市内中心部での移動であれば、夜間の移動でもチップ込みで高くとも 200 シリアポンドである。

ホテルでは、通常チップは不要であるが、特別なお願いをした、あるいはサービスが良かった場合には、50 シリアポンド(1米ドル)程度を渡すと良い。

レストランは、サービス料が含まれている場合はお釣りの小銭程度、含まれない場合は料金の10～15%のチップを渡すのが普通である。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

飲食店は多いので、困ることはない。しかし、衛生状態が必ずしもよい店ばかりではないので、自分の目で確認すること。特に夏場の生野菜や生肉、マヨネーズ(生卵が材料となっている)の類には十分に注意したい。また、イスラム圏の国なので、一部の高級ホテル、レストラン以外では、アルコール類は置いていない。

最も多いのは、軽食やファストフードの店で、サンドイッチ店では、アラブ特有の薄いパンにファラーフェル(ヒヨコ豆のコロッケ)や揚げポテト、生野菜を挟んだファラーフェル・サンドイッチ(25～50 シリアポンド)や、焼いた鶏肉、羊肉などを挟んだシャワルマ・サンドイッチ(約50 シリアポンド)が売られている。ハンバーガー(25～50 シリアポンド)やフライドチキンなども、手軽に入手できる。また、近年ケンタッキーフライドチキン(KFC)や Subway もできたが、高価(セットメニューが200～300 シリアポンド)である。

生ジュース店も多く、季節の果物の絞ったジュースを飲むことができる。料金は季節によって変わるが、いずれも廉価(約50 シリアポンド)である。

喫茶店も、日本と変わらない品揃えの店などが多数あり、アラブ特有の水タバコを吸える店もある。ただし、食べ物、飲み物、デザート類は、概して日本より甘めなので、苦手な人は注意すること。料金は、ほとんどのものが日本より安く、会計は、大抵テーブルで行う。

(2) 飲食店

各高級ホテル内にシリア料理を初めとするレストランがある。ホテルの詳細は Part3 イエローページを参照のこと。

シリア料理レストランとしては、デデマン・ホテルの近くに、Orient Club、Noble Palace Restaurantという高級レストランがある。旧市街には、Omayyad Palaceなどの民族舞踊や楽器の生演奏が行われる高級レストラン、Elisaar などの中クラスなレストランがある。カシオン山上の Ahala Tali も、リーズブルな料金で美味しいアラブ料理が味わえ、ダマスカス市内を一望できるため、外国からの来客時に利用することが多い。安価なレストランとしては、Journalist Club(ムハジリン地区)があり、特に酒類(ビール、ワイン)の値段が安い。

一般的なレストランとしては、La Chevalier、Jemini(いずれもアブルマーニ地区内)があり、シリア料理のほか、ステーキ、ピザなどの洋食も揃っている。中国料理店は、La Chinois(シャーム・パレス・ホテル内)、Golden Dragon(セミラミ

Yellow Page

ス・ホテル内)がある。イタリア料理店は市中に多くあり、総じてレベルは高いが、中でもメッセ地区の La Fontana が有名であり、在留外国人の評判もよい。日本料理店も最近増えてきており、寿司(ツナ、サーモン、タコ、イクラなど)、刺身、天ぷら、鉄板焼等の日本食が食べられる。

外国人向けの喫茶店には、デデマン・ホテル内のロビーの横に Le Gourmet があり、ドリンク、ケーキ、クロワッサン類がおいしい。また、シャーム・パレス・ホテル近くの Aroma cafe も、外国人向けの味付けの軽食、デザート類が食べられる。カフェは市内各所に存在し、ほとんどのドリンク類が揃っている。

主なレストラン、喫茶店は、次のとおり。

< シリア料理 >

- ・Jabri House (旧市街ウマイヤドモスク近く、酒類なし)
- ・Omayyad Palace (旧市街ウマイヤドモスク近く、スーフィーダンス有り)
- ・Elissar (旧市街 Bab Touma 近く、2 階席のみ酒類提供)
- ・Arabesque (旧市街)
- ・Casablanca (旧市街 Bab Sharqi 近く、2 階席のみ酒類提供)
- ・Al-Kamal(新市街)
- ・Ali Baba(新市街)
- ・Orient Club(新市街、デデマン・ホテル近く)
- ・Noble Palace Restaurant (新市街、デデマン・ホテル近く)
- ・Journalist Club (ムハジリン地区、酒類が安価)
- ・Ahala Tali (カシオン山上)

< インターナショナル料理 >

- ・La Chevalier (アブルマーニ地区)
- ・Gemini (アブルマーニ地区)

< 中国料理 >

- ・La Chinois(シャーム・パレス・ホテル内)
- ・Golden Dragon (セミラミスホテル内)

< イタリア料理 >

- ・La Fontana (メッセ地区)
- ・Past Cozy (アブルマーニ地区、テイクアウト可)

< 日本料理 >

- ・SAKE (セミラミスホテル隣の Cinema Square 内)
- ・Hanabi (Four Seasons Hotel 隣のモール内)
- ・Fujiyama (シャーム・パレス・ホテル内)
- ・Vendome Café (マルキ地区)
- ・Four Seasons Hotel 内の寿司・刺身ビュッフェ

< その他 >

- ・Taj Mahal (インド料理、)

< 喫茶店 >

- ・Aroma cafe
- ・Le Gourmet
- ・La Noisette
- ・Sale Saucré

4-2 食料

(1) 一般事情

一年を通して、米、野菜、果物、肉類、乳製品などの主な食料が、種類、量ともに豊富に出回る。種類は日本の市場に出回るものと似ており、旬の野菜、果物は大変美味である。購入単位は、最低 100g(あるいは 1 個)からとなる。日本ほどではないが、厳寒期にも夏野菜が出回る。また、欧米の輸入食品も最近増えてきた。

食品の衛生状態は、店によって違う。肉類は、衛生状態のよい店でよく選んで買ったほうがよい。野菜(特に菜葉類)には、寄生虫卵が付いていることが多いので注意して洗う。また、鶏卵を生で食べることも避けたほうがよい。最近流通しているペットボトル入りの新鮮な牛乳(賞味期限5日)は、そのまま飲むことができるが、夏季は劣化していることが多く要注意である。

(2) 主な食品の出回り状況

< 米 >

日本米はないが、短粒米として、エジプト米やイタリア米、カリフォルニア米、オーストラリア米が入手でき、味も悪くない。もち米は入手できない。

< パン類 >

シリア特有のパンのほか、フランスパン、コッペパン、菓子パン(あんパンはない)などがあるが、独特の香辛料が入っていることが多く、日本のものとは風味が異なる。しかし、最近は日本人好みのパンも手に入るようになってきた。クロワッサンや菓子パンは、どこのパン屋、スーパーマーケットでも入手可能。

< 麺類など >

パスタは豊富にあり、中華麺も輸入食品店等で入手可能である。最近は、一部の輸入食品店では、うどんとそばの乾麺も入手可能である。また、小麦粉(中力粉)、セモリナ粉、雑穀がある。薄力粉、ベーキングパウダー、ドライイースト、コーンスターチ、ホットケーキ粉も入手可能。

< 豆類 >

ヒヨコ豆、レンティル豆、ウズラ豆、白インゲンなどが豊富にあり、最近は大豆も出回り始めている。小豆は入手できない。

< 肉類 >

牛肉、羊肉、鶏肉、輸入品のソーセージ、ハム(牛肉もしくは鶏肉製)などがある。豚肉及びベーコン等の豚肉加工品も、一部の限られた店で入手可能。

< 乳製品 >

牛乳は、フレッシュミルク、ロングライフミルクがある。乳製品は、ヨーグルト、バター（塩分が入っていないもの）、チーズ、練乳がある。シリア産の塩味主体のチーズは、ブルセラ症対策のために、一度火を通すことが必要。輸入チーズも各種あり、イタリアのモッツアレラチーズ、フランスのブルーチーズも手に入る。飲むヨーグルトもあるが、味付けは全体的に塩辛い。

< 野菜 >

キャベツ、ニンジン、玉ネギ、ジャガイモ、ニンニク、ショウガ、レタス、キュウリ、ナス、トマト、ピーマンなどは一年中出回っている。季節別に分けると、春はソラ豆、サヤインゲンなど、夏はオクラ、ズッキーニ、モロヘイヤなど、秋と冬はサツマイモ、ホウレンソウ、カリフラワー、青ネギ、カブなどが出回る。季節野菜は、買える時に購入して冷凍しておくとう便利。

< 果物 >

特に春、夏の果物が美味である。リンゴは一年中出回る。季節別に分けると、春はオレンジ、イチゴ、サクランボ、アンズ、スモモ、ビワ、夏は桃、スイカ、ハミ瓜（黄メロン）、ブドウ、洋梨、イチジク、秋はブドウ、ザクロ、柿、グレープフルーツ、冬はミカン、オレンジなどが出回る。

< 魚介類 >

海岸地方から遠いため、ダマスカスでは数軒の大きな市場だけが魚介類を扱っている。入荷も少量で高価であり、常に新鮮とは限らない。特に夏季は種類、量が少なくなり、かなり鮮度が落ちる。比較的安いのは、ニジマス、イワシ、カツオ、アジ、ムール貝であり、カジキマグロ、サワラ、サケ、タラ、タイ、エビ、イカ、タコは高価である。

冬場は Lattakia (ラタキア) から魚屋が車で行商に来ることが時々あり、新鮮なものを入手できる。また、Lattakia、Tartus (タルトゥース) の港近くの魚市場へ行けば、冬季ならマグロ、イカ、カワハギなどの刺身にできる魚が比較的安く入手できる。

冷凍ものでは、スモークサーモンやエビ、イカ、シーフードミックス、白身魚の切身、カニかまぼこ、うなぎ等が入手可能である。

< 調味料 >

塩、砂糖、しょうゆ、ナンプラー、ウスターソース、オイスターソースなどの調味料、コショウ、白ゴマ、シナモン、生姜などの香辛料が多種ある。リンゴ酢、ワインピネガー、マヨネーズ、ケチャップ、ジャムもある。わさびや味噌、みりんも一部の輸入食品店で入手可能である。

< 油 >

オリーブ油、コーン油、ひまわり油、マーガリンなどがある。輸入食品店などでは、ゴマ油も入手可能。

< 嗜好品 >

酒店、免税店などで、種類は多くないが、洋酒(ビール、ワイン、スコッチウイスキー、ブランデー、ウォッカなど)が手に入る。ワインについては、隣国レバノン製のワインが安価かつ美味である。日本酒、焼酎はない。タバコはシリア産と欧米産が広く出回っている。インスタントコーヒー、ココア、紅茶等は豊富であるが、日本人の味覚に合うおいしいコーヒー豆・粉はない。アメリカのコーヒーはある。緑茶については、中国緑茶の茶葉が香辛料店で入手可能であるほか、欧米製のティーバッグ(日本人の味覚には余りあわない)が輸入食品店で入手可能。

< 飲料水 >

水道水は、ほとんどの地域で飲み水としてそのまま使用できるが、カルシウム分が多い硬水である。飲用には通常、水道水を煮沸するか、ミネラルウォーター(1.5リットルのペットボトルで25シリアンポンド)を用いるのが無難である。

< 菓子類 >

アイスクリーム店や洋菓子店が多く、ケーキ、クッキー、チョコレート、キャンディーなども入手できる。アーモンド、ピーナッツ、ピスタチオ、種子類などのナッツ類も豊富である。

< 輸入食品 >

輸入規制(特に密輸規制)の取り締まりが時として厳しくなるなど、輸入食品の入手には不確定要素が多いが、ここ数年は種類、量ともに増えてきた。休暇・出張時を利用して持ち込まないと、手に入らない場合もある。

(3) 食料の入手

日本食品を扱う専門店はないが、しょうゆはアメリカ産の「キッコーマン」が多くの食品店で販売されている。カファルスーセ地区の Charm City Center 等では、味噌、焼きのり、梅干ペースト、そば・うどんの乾麺、わさび(チューブのもの)なども取り扱っている。

中華麺、ライスペーパー、春雨、春巻きの皮などの中国料理の材料、ゴマ油、オイスターソースなどの調味料は輸入食品店で見かけるが、高価である。その他、中国人業者が木綿豆腐を作っており、メッセ地区の Hamadah(ハマダ)でも入手できる。

野菜、果物は青物市場、肉類は肉屋で購入する。日本のように、1軒のスーパーマーケットで何もかもが揃う店舗は少ないが、最近ではダマスカス市内に数店舗開業している。調味料や缶詰類は、輸入食品店で購入する。

日本食品は手に入らないものもあるので、乾物などをアナカン(別送荷物)で大量に持ち込んだり、ヨーロッパなどへ出かけた時に購入したりするとよい。

現地日本人が良く利用するスーパー、食料品店は、次のとおりである。

- ・Grand Mart (Charm City Center 内、カファルスーセ地区)
- ・Mono Prix (Damasquino Mall 内、カファルスーセ地区)
- ・Grand Mart (Marqi Plaza 内、マルキ地区)

- ・Norma (輸入食料品店、マルキ地区)
- ・Bader (輸入食料品店、シャーラン地区)
- ・Hamadah (輸入食料品店、メッセ地区)

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

現地で調達できるものは、冷蔵庫、電気コンロ、ミキサーなどの家電製品、やかん、包丁、料理バサミ、まな板、鍋(ステンレス、テフロン加工品が多い)、中国鍋、圧力鍋、フライパン、ケーキ用具一式などの調理器具、エアポット(日本製あり)、皿、コップ、洋食器、フォーク、スプーンなどの食器、盆、プラスチック製保存容器、つまようじ、裏ごし器、保温機能付き水筒などである。

外国人向け住宅では、冷蔵庫などの大型家電製品のほか、ひとつおりの台所用品が備えられていることが多い。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具など

すりばち、蒸し器、飯台、菜ばし、和食器類(茶碗、茶碗蒸し用の器、重箱、湯呑み、茶托など)、包丁の砥石、出刃包丁、子供用弁当箱などがある。乾物大豆は購入できるので、苦汁と木型があれば豆腐をつくれる。

ほとんどの家電製品が揃うが、電気炊飯器は持参したほうがよい。その他は、高い運賃をかけて日本から運ぶより、現地で購入するのが得策である。

5. 生活用品の購入



5-1 家電製品

メッセ地区のオートストラード通り沿いなどの大型電気店や、Damasquino Mall 等の大型ショッピングセンター内の家電売り場で、ミキサー、キッチンスケール、キッチンタイマー、コーヒーメーカー、テレビ、オーディオ、洗濯機、掃除機、扇風機、パソコン、ノートパソコンなどが購入できる。

また、ビデオデッキも現地で購入できるが、日本製のビデオテープを再生しようとしてもTVの映像形式(日本:NTSC方式、シリア:PAL方式)が異なるため、再生できない。どうしてもビデオが観たい場合は、日本からビデオデッキとテープを持ってくるとよい。

DVDについては、シリアのリージョンコードは日本と同じ2であるが、TVの映像形式が異なることもあり、DVDプレーヤーでは再生出来ない。なお、PCのDVD再生ソフトは、PAL、NTSC両方式に対応しているため、再生可能である。

5-2 家具

品質のよい家具は入手困難。シリア産の家具は、見栄えはよいが壊れやすいのが難点。主な家具店にはDELTAがある(詳細はPart3イエローページを参照)。



5-3 日用品、雑貨

日用品であるトイレトペーパー、ティッシュペーパー、掃除用具は雑貨店、スーパーマーケットで販売している。文房具は日本のゼブラ製が多数流通しており、文房具街などへ行けば種類も豊富に揃っている。バスルーム用小物は、レバノンからの輸入品であるアカスリ、石鹸、シャンプーなどがふつうに入手できる。特に石鹸は、特産のオリーブ石鹸や、月桂樹石鹸、ハニー石鹸などが多く揃っていて、留守家族向けの土産としても重宝されている。

5-4 工具、素材

工具や DIY 用品は日本ほど種類が豊富ではないが、基本的なものはひとつとあり揃えられる。ドライバー、のこぎり、かなづち、釘、ネジ類は値段も安く、雑貨店や雑貨スーク、輸入品店で販売しているので、家電製品や家具の補修、修理も可能である。ただし、家具や家電製品などは家主の負担で修理してもらえることが多い。

布地の種類は多いが、木材類はほとんど入手できない。

6. 金融機関



6-1 金融機関

(1) 銀行

シリアの民間銀行で外貨・現地通貨の個人口座が開設できる。

最近では街なかにも ATM が設置されており、PLUS もしくは Cirrus マークのあるキャッシュカード(国際キャッシュカード)を日本でつくってきた場合は、シリアポンドのみ引き出しができる。国際キャッシュカードやクレジットカードのキャッシングが可能な ATM は、シェラトンやデマンといった主要ホテル内や、ダマスカス市内であれば市内各所に設置されている。暗証番号などを入力するナンバーボタンが周囲の人から見えている状態であるなど、設置場所は必ずしも安全なところとはいえないので、現金の引き出しには十分に注意すること。また、銀行の現金補充が間にあわず、お金を引き出せないこともある。

シリアの主な銀行としては、BSO (Bank of Syria and Overseas) があり(詳細はPart3イエローページを参照)、日本国内の円口座から同行への海外送金も可能である。

 Yellow Page

(2) 口座の開設と閉鎖

個人で手続きをする場合は、パスポートを銀行に持っていき、開設したい旨を係の人に伝えると、アカウントを発行してもらえる。口座の解約も容易である。

(3) 小切手

小切手の利用は一般的ではなく、個人ではほとんど利用されていない。主に

法人や政府が利用しているが、その頻度はきわめて低い。

(4) 換金方法

銀行、空港、ホテル内の両替所で換金する。銀行の両替所では米ドルのほか、ヨーロッパのユーロなどをシリアポンドに替えることができる。デデマン・ホテル内の両替所では日本円からシリアポンドへも両替できる。ただし、いずれもシリアポンドからの両替はできない。闇の両替もあり、街なかで声がかかるが、違法なので利用しないこと。

トラベラーズチェックは 2003 年秋以降、セミラミスホテル前にある Commercial Bank of Syria の No.5 の支店(電話:011-221290)などを除いてほとんど換金できないので、使い勝手は非常に悪い。

6-2 クレジットカード

VISA、MasterCardは高級ホテル等で利用可能であるが、利用できる店は限られている。Diners、JCB、American Expressについては、高級ホテル等でも使用出来ない場合が多く、適用度が低い。また、銀行のATMからVISA、Master等のクレジットカードで現金を引き出すことも可能。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) 一般事情

国内主要都市間を結ぶ公共交通は、長距離バスが便数も多く最も便利である。鉄道、航空便もあるが、便数が少なく、余り便利ではない。

国外へは航空機での移動が一般的であるが、ヨルダン、レバノンと言った近隣国へは乗合タクシー(セルビス)が高頻度で運行されており、値段も安いこともあり便利である。

<長距離バス>

各主要都市間を結ぶ幹線道路を往復する最も重要な交通手段であり、他の交通手段に比べて便数が多く料金が安い。Kadmous Trasnport、トランスツアーバスなど、多数のバス会社のサービス網が広域にわたり、国内はもとよりヨルダン、レバノン、トルコへも運行している。

ダマスカスの主要バスターミナルは、郊外のハラストー地区(ガラージュ・ハラストー:ホームス、アレppoなどダマスカスより北へ向かうバスが発着する)と、ソマリエ地区(ガラージュ・ソマリエ:ダラアなどダマスカスより南へ向かうバスとヨルダン、レバノンへの国際バスが発着する)の2つがある。

チケットはバスターミナルにて購入可能で、ラマダン明け休暇等の繁忙期以外は、出発当日でも入手可能。Kadmous Trasnport はダマスカス市内中心部にもチケットカウンターがあり、そちらでも購入可能。窓口で英語はほぼ通じる。

< 鉄道 >

ダマスカスから北方面行き(Aleppo アレppo、Deir-Ez-Zor デリゾールなどへ行く列車は夜行寝台)がある。自家用車や長距離バスと目的地への所要時間は余り変わらないが、1日の便数が行き先別に1、2本と、極端に少ない。列車は市内中心にあるヒジャーズ駅ではなく、市郊外南方にあるカダム駅から発車している。チケットは駅にて購入可能。

< 航空 >

国際空港としてダマスカス、アレppo、ラタキアが、国内空港としてカミシリ、デリゾールがある。各空港間は国営シリアアラブ航空による国内線が運航されている。シリアアラブ航空は、欠航や遅延など突然のフライトスケジュール変更があることより、利用はあまり勧められない(ダマスカス～アレppo間は便数が比較的多く、欠航も少ない)。

国際線は、シリアアラブ航空、外国系の航空会社により、ダマスカスより中東主要都市、欧州主要都市へ、ほぼ毎日運行している。シリアアラブ航空は欠航が多いこともあり、外国系の航空会社を利用する方が良い。

日本からは、ドバイ、アブダビ、ドーハ経由が、所要時間も短く、ほぼ毎日フライトがあるため便利である。

< セルビス(乗り合いタクシー) >

通常のタクシーに比べ、格安で便利な交通手段である。決まった経路を走っており、経路上であれば乗降自由である。市内や近隣都市間(所要時間2時間未満程度)で運行しており、長距離バスが運行していないような、小さな町や村にもセルビスを利用して行くことが出来る。料金は、ダマスカス市内の移動であれば、1回あたり10シリアポンドである。

なお、行き先表示はアラビア語のみのため、アラビア文字を読めない者、また現地の地理感覚がない旅行者が利用するのは難しい。

< タクシー >

現地で走っているタクシーは、車体が黄色である。深夜以外は容易に利用でき、メーター制のものが多く料金は安い。深夜は割り増し料金になる。車両は老朽化したものが多いが、近距離の移動には便利である。ダマスカス市内の移動であれば、相場は50シリアポンド程度。タクシー運転手の多くは英語を解さないため、初歩的なアラビア語が話せることが望ましい。

(2) 空港から市内への移動

ダマスカス空港から市内までの距離は30km(時間にして約30分)。空港到着ロビーにプリペイドタクシーカウンターがある。市内各地までの料金は1500シリアポンド(約30米ドル)で、空港カウンターで前払いする。カウンタースタッフは英語を話せるが、ドライバーの多くは英語を話せたいため、行き先についてカウンタースタッフからドライバーに説明してもらおうと良い。その他、ダマスカス市内のパラムケ地区まで空港バスが1時間に1本程度の頻度で走っており(荷物代も含めて約

70シリアポンド)、バラムケ周辺が目的地の場合は便利である。

(3) 自家用車を利用する場合

大都市を結ぶ幹線高速道路や市内主要道路は、道幅は広く、舗装状態も概ね良好であるが、ときどき穴が開いていたり、マンホールなどが浮き上がったりしていることがあるので、注意が必要である。空港道路やダマスカス周辺の一部の高速道路を除いて、街灯は設置されていない。また、地方道路には急カーブが多いので、夜間のドライブは避けたほうがよい。冬場の雨で路上が濡れている時は、磨耗したタイヤや舗装状態の悪い路面が原因でスリップする車が多いので、十分に注意すること。

交通法規は、ほとんど守られていない。スピード運転、追い越し、信号無視などが非常に多いため、よほど注意しないと交通事故に遭う可能性が高く、細心の注意が必要である。特に夜間運転は路面状態が悪い上街灯が少なく路面が見づらいことから極力避け、スピードも常に控え目で運転することが大切である。また、幹線道路から外れ、内陸部(砂漠)を走る時は迷う恐れがあるため、必ず道案内人を立てること。思いがけず軍関係の施設に迷い込むと、大変なことになる。

運転時に常に携帯しなければならない書類には、運転免許証、車検証(車の所有者を証明する書類。交通警察が発行)、黄色カード(車両が正規に輸入されたことを証明する書類。税関が発行)、強制・任意保険証などがある。

なお、先述のとおりタクシー、セルビス、長距離バスの利用で日常生活に支障が少ないことから、関係者の多くは自家用車を所有していないのが現状である。また、右ハンドル車は輸入が禁じられていることから、自家用車を所有する場合は、当地で調達することとなる。

(4) レンタカーなどを利用する場合

運転手付きと、車両だけのレンタルがある。後者は、長期の契約もできる。



主なレンタカー会社は、次のとおり(詳細は Part3 イエローページを参照)。

- ・Global Village
- ・Europe Car (事務所はデデマン・ホテル内)

(5) 地図

市内地図はツーリスト・インフォメーションにて無料で入手できるが、英語版の地図は品切れのことが多く、必ずしも入手できるとは限らない。また、地図上の情報が古く、新規の道路整備状況が反映されていないこともあり、名前、場所などが実際と違っていることが多く、信頼性は高くない。鉄道路線図、長距離バス路線図は、出回っていない。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

最寄りの交通警察(Traffic Police。電話:115)に連絡すると同時に、110番に電話して救急車を手配する。ただし、110番は英語が通じないため、現場にい

るシリア人に応援を頼むか、救急車がすぐに来るとは限らないので病院が近ければ事故現場から直接運び込む。車両事故は、警察を呼びレポートを書いてもらわないと保険がないので、要注意である。

概して運転者側は、歩行者優先の意識が薄いため、歩行者は厳重な注意が必要である。

(2) 救急病院

ダマスカス市内では、Al-Sharmy Hospital、Al-Asadi Hospitalなどがある。Al-Sharmy Hospitalは24時間営業で、ほぼ英語も通じる。

(3) 車両の盗難、車上荒らし

車両の盗難の心配は少ない。ただし、駐車場がほとんどなく、路上駐車せざるをえない場合が多いので、確実に施錠し、荷物を車外から見える場所に放置しないように注意すること。また、いたずら書きや、あて逃げをされることもある。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

車は右側走行である。交通違反には、信号無視、駐車違反、路線違反、スピード違反、歩道駐車、16:00～7:00(夜間)警笛使用規制、シートベルト非着用(運転席と助手席)などがある。2009年に道路交通法が改正され、特に駐車違反やスピード違反の罰則が強化されている。

(2) 罰金、罰則

交通法規は実際にはほとんど守られておらず、運転マナーは非常に悪いといわざるをえないが、国が定めている罰則、罰金は存在する。主な罰則は、信号違反(罰金 1,500 シリアポンド、複数回捕まった場合短期間のライセンス没収あり)、携帯電話を使用しながらの運転(罰金 500 シリアポンド)、シートベルト未着用(罰金 200 シリアポンド)、駐車違反(罰金 200 シリアポンド)、夜間のクラクションの多用(罰金 1,000 シリアポンド)などである。

支払い方法に関しては、その場で交通警察により違反チケットが切られるので、指示に従うこと。出頭場所、日時、罰金などはチケットに記されている。

7-4 車の修理

(1) 部品

一部の車両(部品)を除き、シリアにあるすべての車は輸入したものである。部品は入手できる。

(2) 修理工場

技術水準に問題はないが、すぐに故障してしまうことがあるので、信頼のおける工場に依頼したほうがよい。修理工場がある場所は、バラムケ近くの Zukak Al Jin 地区とカダム駅のあるカダム地区に集中している。

また、ディーラーのサービスには修理項目も含まれているので、ディーラーに修

理を依頼してもよい。ダマスカスには、トヨタ、プジョーなどの主要な外国自動車メーカーのディーラーがある。

主な修理工場には、AI IMAD、Toyota AI Saadyがある。

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

首都では、小さな会社、店舗にいたるまで、一般固定電話の普及率は高い。また、各家庭への普及もかなり進んでいる。ただし、新規の申し込みが多く、電話回線を引くのに時間がかかる。したがって、住宅を選定する時は、電話が即使用できることを条件にすること。

シリアでは、1994年からカード電話が開設された。国際電話にも使えるカードは、商店で販売している。ただし、公衆電話は故障中か使用中であることが多いので、緊急の時は最寄りのホテルの電話か携帯電話を使用すること。

最近では携帯電話の普及が著しい。

(2) 国内電話

一般固定電話から市内へのダイヤル直通の通話料金は、3分間につき0.6シリアポンドである。ダマスカス市内からアレッポやラタキア等への市外通話料金は、シリア国内1分につき1.5シリアポンドである。

(3) 国際電話

直通の場合は、00(国際電話発信番号)、国番号に続けて市外局番(最初のゼロを除く)、相手の番号をプッシュする。日本へは1分ごとに25シリアポンド、アメリカへは1分ごとに20シリアポンドの料金がかかる。この料金は、時間帯により割引となり、日本への電話の場合、シリア時間22:00～6:00で1分20シリアポンドである。コレクトコールの可否に関しては、該当情報なし。

(4) 携帯電話

携帯電話はよく普及しており、人が居住しているところでは、ほぼ通話可能となっている。携帯電話からの国際通話も可能であり、固定電話以上に回線は安定している。プリペイド式の携帯電話(国際通話可能)も普及しており、短期滞在者も市内にある携帯電話会社の窓口で容易に購入・利用することが出来る。プリペイドカードは、市内の多くの商店で入手可能である。

シリア国内では、携帯電話会社は、Syria-Tel(シリア資本)、MTN(南アフリカ共和国資本)の2社があるが、料金・サービス内容とも大きな違いはない。

携帯電話機の販売店も多く、機種はノキアが主流である。機種にもよるが、安いものは2,000シリアポンドほどで入手可能である。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

問題なく使用できる。シェラトン・ホテルなどでは個人でファクシミリ送信サービスを利用できるが、3分ごとに50%のチャージがかかり、割高になる。料金は1分間75シリアポンド程度である。

(2) テレックス

該当情報なし。

(3) 電報

国営電報局が24時間オープンしており、国内外宛てを取り扱っている。使用可能な言語は、英語、フランス語、ドイツ語、アラビア語で、窓口の所定の用紙に打電先住所、氏名、電報文を大文字で記入する。ローマ字表記の日本語でもよい。パスポートを持参すること。

海外からの電報宅配はなく、P.O.Boxに入電の通知が届くので、電報局へ向いて受け取る。

(4) インターネット



インターネット・プロバイダーは、国営が1社、民間が4社ほどあり、同プロバイダーのメールアドレスの取得が可能である。

回線はダイヤルアップ(56kbps)が最も普及しており料金も安い。3G(携帯電話回線を利用したもの、7-8Mbps)やADSLも普及してきている。

3Gは携帯電話会社(Syria-Tle、MTN)事務所で手続きをすればすぐ利用可能であり、Windowsだけでなく、Mac等のOSにも対応している。3Gモデムは、USBを介してパソコンと接続する。料金は従量制で、データ量が2GBまで1,500シリアポンド/月、5GBまで2,500シリアポンド/月、容量無制限で10,000シリアポンド/月となっている。プロバイダー料金も含まれているため、改めてのプロバイダー契約は不要である。また、加入時に保証金(解約時に返金される)が10,000シリアポンド、その他、モデム代等で2,000~3,000シリアポンド必要となる。

ADSLは、申請から設置まで時間が掛かる場合が多い。料金は定額で、Syria-Telのものは、プロバイダー料金込みで1ヶ月1,500シリアポンドとなっている。

また、最近ではインターネットカフェも増えてきており、ダマスカス市内では容易に見つけることができる。ADSL等の高速回線を導入している店もある。

8-3 郵便

(1) 一般事情

中央郵便局は、市の中心部ヒジャーズにある。1階では1kgを超す郵便物の発送・受け取りを扱い、2階では1kg以下の郵便物の発送・受け取りやその他の業務と、私書箱の管理をしている。営業時間は7:00~15:00で、金曜日は休業である。

通関手続(検査、課税)が煩雑なので、1kg以下であれば小型包装便(Small

Packet)の利用を勧める。この場合は内容検査も課税もなく、中央郵便局の2階窓口で即時郵便物を引き取ることができる。軽量の衣料、書籍などの郵送に便利である。

日本からの船便は、到着まで2カ月を要し、時にはそれ以上になる。航空便であれば、日本からの手紙、小包共に1週間～10日で到着する。シリアから日本への発送も、ほぼ同程度の日数が掛かる。

小包の発送時に日本で記入する税関告知書については、内容品の価格欄の記入に基づいて引き取り時の課税額が決定される。内容品の価格欄に高い価格が表示されていたばかりに途方もない税金を支払うこともあるので、留意すること。

郵便物の宅配制度はない。

(2) 課税

日本食品などには、ほとんど課税されない。課税率の高い物品は、新品の衣料・靴などである。

(3) 国際宅配サービス

ARAMEXを使用した場合、日本までは1週間～10日で到着する。DHL、Fedexといった国際宅配サービスも利用出来る。その他、シリア郵便局のEMSも安価で利用できるが、発送手続きが煩雑である。

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の方法

海外で部品を購入し、国内で組み立てられた製品が多数販売されており、価格も日本と大して変わらない。最近では、日本ブランド(SONY等)、海外ブランド(Dell、HP等)のPCも、市内の電気店で入手可能である。Macintoshについてはシェアが少なく取扱店は少ないが、購入は可能である。周辺機器のプリンター、ケーブル、消耗品であるCD-R、DVD-Rなども多数販売されている。

日本語仕様のパソコンは販売されていないが、Windows7、WindowsXPのソフトが入っていれば、設定を変えることで日本語入力への変換は可能となるため、不自由さは感じられない。

(2) 使用の際の注意

停電がよく発生することもあり、デスクトップ型パソコンの場合はUPS(無停電電源装置)を使用した方がよい。スタビライザー(安定器)は必ずしも必要ではないが、現地の電圧は不安定なので使用したほうがよい。スタビライザー機能がついたUPS(約3,500シリアポンド)も広く流通している。

また、シリアでは著作権に対する認識が皆無に等しいので、市中に出回っているソフトの多くは海賊版である。なかにはウイルス入りのソフトもあるので、使用に際しては十分に注意すること。

コンセントの形状、電圧に関しては、「1-7 家電(2)コンセント、モジュージャックの形」を参照。

(3)修理

大まかな修理は可能であるが、修理後再び壊れることがよくあるので、あまり勧められない。

10. 職場環境、勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

(1)就業時間

政府機関等公的機関の就業時間は 8:00 ~ 15:30。昼休みはなく、一部の幹部を除いてほとんど残業はしていない。

JICA シリア事務所は 8:30 ~ 16:30(昼休み 13:00 ~ 14:00)

(2)有給休暇

公務員については、7日、14日、21日:最大、と勤続年数を重ねるに従い、取得可能な有給休暇日数が増える仕組みとなっている。

(3)執務室

公務員については、Directorクラス以上は個室勤務となる。シリアの省庁では、各執務室は狭いため、平職員は2-3名で一室を共有している場合が多い。

エアコンは、多くの場合は、予め備え付けられている。

(4)通勤事情

タクシーやセルビス(乗り合いタクシー)を利用しての通勤が一般的。日本人の場合は、徒歩、公共交通、自家用車と通勤手段は様々である。シリア側配属機関が、通勤用の運転手付き車両を手配してくれる場合もある。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1)空港施設概要

ダマスカス空港を利用する国際線は、全てターミナル1を利用する(ターミナル2は国内線専用)。ターミナル1正面玄関から(1階)右側が発発用チェックインカウンター、左側が到着ロビーとなっている。入出国審査や税関は1階にあり、2階には搭乗口、待合室、土産物店、飲食店があり、3階には免税店がある。ただし、土産物の品揃えは限られるため、市中で購入しておいた方がよい。到着ロビーには、両替商、レンタカーのカウンターがある。到着口は1ヶ所のため、待ち合わせは容易である。

(2)入国手続き書類

入国カード(出国時まで保管すること)、パスポート、ビザ(日本ないし第三国のシリア大使館で事前に取得すること)が必要である。

(3) 入国審査

入国ビザ、入国カードのチェックのみである。ビザの期間に関わらず、滞在許可期間は一律2週間までのため、2週間以上滞在する場合は、入国管理局に赴き滞在期間延長の許可を得る必要がある。

(4) 税関検査

持ち込み禁止品は麻薬、ポルノ関係の品物、けん銃、映像データ(DVD, CD等)、高性能短波ラジオ、FAXモデムなどである。

(5) 空港内での留意点

空港内外には軍関係施設があるため、基本的に撮影禁止。どうしても記念撮影をしたい場合には、付近の空港職員や警官に確認すること。

(6) 出迎え

該当情報なし。

(7) 空港からの主な交通手段

プリペイドタクシー利用が便利。受付カウンターは到着ロビーにある。通常のタクシーは値段交渉が必要となる。バスは1時間に1本程度出ており、料金は安価であるが、市内ターミナルから別途タクシー等で目的地に移動する必要があり、時間が掛かる。

(8) その他の留意点

空港でのカート使用料は50シリアポンド。カートを使用して係の人に運んでもらう場合は、さらに50シリアポンドのチップが必要である。

車の駐車料は、30分で25シリアポンド。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

入国時に記入した入国カードを、出国審査時に提出する必要があるため、入国カードを失わないよう留意すること。

(2) リコンファーム

72時間前までに、ホテルのレセプションに頼むか、直接航空会社支店に電話する。シリア訪問時に良く使われる航空会社では、エミレーツ航空、カタール航空、エティハド航空、エールフランス、オーストリア航空におけるリコンファームは不要である。一方で、トルコ航空、エジプト航空はリコンファームが必要となっている。状況が変更していることもあるため、利用時は航空会社のホームページ等で最新状況の確認が必要である。

(3) チェックイン

国際線は出発の2時間前、国内線は1時間前にチェックインする。

(4) 空港利用税

出国税は1人1,500シリアポンド。2009年7月より電子チケット(E-ticket)保持者は、チケットに出国税が含まれるようになったので空港での支払いは不要。

(5)その他の留意点

特に留意することはない。

11-3 帰国手続き

(1)帰国時に必要な事務手続き

通常の出国手続きと同じである。居住許可証(イカマ)を保持しているものは、イカマを返却しておくことが望ましい。

(2)車の処分

シリアの一般の購入者にとって車は、車の価格の約2倍もの税金がかかる高価な一生ものの財産であり、壊れるまで乗り潰すものである。

(3)家財道具の処分

送付方法には、アナカン(別送荷物)と郵送、国際宅配業者とがある。

アナカンは、旅行代理店もしくは航空会社で、日本までの航空券(どの航空会社でもよい)を提示して手続きするとよい。

郵送には、航空普通小包、航空割引小包、船便小包、書籍専用小包(船便)がある。船便は、日本到着まで2カ月くらいかかることもあるが、料金は安いので、重量がかさみ、すぐに必要としないものを送るのに適している。航空便は、割引小包の利用を勧める。小包は、1個につき20kg以下とすること。

国際宅配業者は、ARAMEX、DHL、Fedex等の業者があり、自宅まで集荷に来てくれ、輸送期間も短い。値段は高めである。

アナカン、郵送については、通関検査があるため、荷物を空港または郵便局へ持参しなければならない。

(4)住宅の明け渡し

それぞれの契約内容によるが、通常、2か月前までに家主に契約の打ち切りを通知する必要がある。家賃は全額前払いが慣例のため、それを受けて返金交渉を行う必要がある。

入居中に住居や付属品に与えた損害に対する賠償を、家主から請求されることがある。付属の家具の持ち出しは禁止である。また、公共料金支払いの精算を忘れずにすること。

(5)外貨持ち出し規制

該当情報なし。

12. 治安、 緊急時の心得



生命・財産に直結することでもあり、治安・安全情報に関しては、各自の責任において最新かつ正確な情報を入手してください。

12-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

2011年3月以降、シリア各地での政府治安部隊と反政府デモ隊による衝突発生により、死傷者が出ている。2011年10月1日現在、日本の外務省の渡航情報では、シリア全土が退避勧告地域となっている。

(2) 対処法

現時点における、シリアへの渡航は避けたほうが良い。

12-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

(注:本情報は2011年3月に反政府デモが発生する前の状況である。)

治安状況は日本と同程度に良く、外国にいるという意識を持って注意を払っていれば、多くの一般犯罪は避けられる。一方で、当国には秘密警察が街中におり、他国と異なり以下の点は特に注意が必要である。

- ・政府、軍、要人への批判的な言動は行わない(当国には不敬罪がある)。また、当国で「イスラエル」という単語は禁句であり、過去に市中でイスラエルに旅行したと発言した日本人旅行者が、治安当局に連行された事例がある。
- ・軍、治安関係施設、政府要人住居周辺での写真(ビデオ)撮影は厳禁である。ただし、これら施設は至る所に散らばっており、一見して分かりにくいものも多いため、多くの旅行者が写真撮影している有名観光地以外では、同行しているシリア人に写真撮影の可否を確認した上で、撮影したほうが良い。

(2) 住宅の防犯対策

安全な国であるため、特別な防犯対策は不要であるが、以下の点について留意して住宅を選定すると良い(当地で外国人が戸建住宅を借りることは一般的でないため、集合住宅に住むという前提で以下記載する)。

- ・侵入されやすい地階や1階の物件は避けたほうが良い。
- ・建物に入るために鍵が必要となる物件が良い。
- ・侵入防止のため、寝室の窓に雨戸や鉄格子がついている物件が良い。
- ・サイレン付きメガホン等のグッズを準備しておく。

(3) 市中での防犯対策

治安は良いほうではあるが、外国にいるという意識を持つ必要がある。目立つ格好や金目のものを目につくところに置かず、バッグの蓋などもきちんと閉じておく。歩行中も、後ろからつけてきている怪しい人物がいないか、ときどき後ろを振り返り、安全確認を怠らない。また、特に女性は、人通りの少ない場所や深夜に一人歩きしない(痴漢犯罪にあう可能性が高くなる)。

(4) 注意すべき場所、危険地域

ダマスカス旧市街のスークハミディーエ周辺及びアルサウラ(旧市街北側にある繁華街)、アレppo市内の時計台周辺などの人が多く混雑している場所では、

スリが多発しており、周囲に気を配ること。また、ダマスカス市内のロクンアルディーン地区(スークジュマの上の斜面市街地)は、犯罪多発地域となっているため、特に夜間は近づかないこと。

大統領をはじめとする要人の私邸、軍事施設にはむやみに近づいたり、周辺で写真・ビデオ撮影をしたりしないこと。

(5) 被害時の心得

強盗などに遭遇した時は、抵抗せず、金品をとらせて逃走させる。抵抗して金品を渡さないと、身体に危険が及ぶことになる。また、犯罪に巻き込まれた際は、在ダマスカスの日本大使館にも速やかに連絡すること。

12-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

長らく発生していないが、数百年に一度大地震が発生しているとされている。その他、身に危険が及ぶような自然災害(洪水等)は発生しない。

(2) 防災対策

日ごろから、食糧の備蓄や非常用物資の準備、金銭の貯蓄などに心がける。

(3) 被災時の心得

火災通報は 113 番、警察は 112 番、救急車は 110 番である。

上記各項目については日本大使館発行の『在シリア日本人心得(緊急事態対処要領)』を参照のこと。

12-4 緊急連絡先電話番号

- ・日本大使館: 011-3338273
- ・警察: 112
- ・消防: 113
- ・救急車: 110

13. 社交



13-1 風俗習慣

シリアの街並みや服装は一見西洋化されているが、人々の生活はイスラムの教えに基づいている。対人関係を重んじ、社交性・社会性を尊び、大人としての風格や言動が求められる社会である。

13-2 パーティーでの留意点

体制への批判めいた話題や政治上の微妙な話題は避けること。シリアのよさを理解すべく、積極的に友好関係を広げるように努めれば、シリア社会はきわめて寛大に受け入れてくれる。

13-3 来客時の留意点

イスラム教徒の訪問客には、酒類、豚肉製品を使った料理を出さないこと。

13-4 訪問時の留意点

日本の絵はがき、小瓶入りの香水、花束、チョコレートなど、ちょっとしたプレゼントがあるとよい。イスラム教徒宅を訪問する際は、ワインなどの酒の土産は避ける。また、訪問先の子供にお金をあげたりしない。

13-5 禁止されている言動(タブー)

ダマスカス等の都市部では、見かけが西洋化しているので、イスラム教の緊張感を感じにくいですが、間違っではめを外すことがないように注意する。特に男女関係は、極めて厳しく制限されているため、肌の露出が多い服装や軽はずみな言動、(特に独身女性が)異性を家に招くことは、厳に慎むべきである。

また、国家元首はもちろん、政府、党、軍の要人、及び国家体制そのものを誹謗、中傷するような言動については、不敬罪として逮捕、拘束されることはもちろん、重罪に処せられるため、政治的話題は極力避けること。

その他、イスラエル関係の言動もタブーとなっており、イスラエルの国名等はシリア人の前では言わないこと。イスラエルに旅行したことを、露店商に話したことにより、約2週間刑務所に拘留された上、国外退去となった日本人もいる。

13-6 日本人会

シリアの日本人会には、入会金200シリアポンド、個人会費半年分600シリアポンドで入会できる。同会は、日本語補習校を運営しており、運動会や遠足などの行事を催している。

13-7 JICA帰国研修員同窓会

JICA Alumni Association in Syria (JAAS)

2005年に設立、現在(2011年9月現在)155名で活動中。

代表者 Dr. Mustafa Aghbar Tel 011-3339359 (JICAシリア事務所)

HP <http://www.jaas-syria.org>

13-8 現地の人々との交流

一般のシリアの人々は、概して非常に親日的なので、友好関係を築きやすい。娯楽の少ない国で人と会って話す行為は、それ自体が娯楽である。職場や居住地域などの人との出会いの機会は数限りなくあるので、交流できるかどうかは、こちらの積極性があるかどうかだけにかかっている。

現地の人との交流では、これといって特別なことはないが、アラブコーヒーや紅茶を飲みながら互いのことを話し合うことが多い。アラブ時間は日本と比べら

れないくらいのんびりと流れているので、日本と同じ時間感覚でものごとを捉えず、アラブ流の社交タイムを満喫するのが一番である。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

2002年より初等・前期中等教育の9年間は、義務教育として無償提供されている。一部の県では学校施設と教員数が不足しているため、二部制を実施しているが、学校数を増やすことで、二部制を解消する計画が進められている。高校は3年制で、義務教育9年の次に行われる、全国統一試験の成績に応じて普通高校と職業高校に分かれて進学することになる。幼稚園から高校まで、公立と私立がある。

普通高校を卒業後は大学(4年制以上)か短期大学(2年制)へ進学、職業高校を出たあとは短期大学へ進学できる。高校では、最終学年に全国一斉の大学進学資格試験(バカロレア)を受け、この成績に基づいて学部が選択される。なかでも最も難関なのは、医学部である。大学は国立大学が5校あるほか、ここ数年の間に私立大学もダマスカス郊外等に数多く開校した。シリアの人々の教育に対する関心は高く、競争率も高い。

学齢期の子女がいる場合は、日本を発つ前に海外子女教育振興財団に出向いて教育相談を受けるとよい。3~4歳児は同年齢の友だちを最も必要とするので、現地でも英語による幼稚園(ナーサリー)への入園を勧める。

< 海外子女教育振興財団 >

URL: <http://www.joes.or.jp/>

E-mail: service@joes.or.jp

受付時間: 9:30 ~ 17:30 (月 ~ 金曜日、祝日・年末年始を除く)

< 東京 >

住所: 〒105-0002 東京都港区愛宕 1-3-4 愛宕東洋ビル 6階

TEL: 03-4330-1349 FAX: 03-4330-1355

< 関西分室 >

住所: 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-200 大阪駅前第一ビル 2階

TEL: 06-6344-4318 FAX: 06-6344-4328



(2) 日本人学校

日本人学校はなく、ダマスカスに日本語補習校がある(詳細はイエローページを参照)。毎週土曜日に、国語、算数を中心に6コマの授業を行っている(授業料2,250シリアポンド/月 入学金1,000シリアポンド、2010年9月現在)。

(3) 現地校、外国人学校

インターナショナル・スクールがある。Damascus Community School(通称アメリカン・スクール)が一般的で、日本の小学1年生から高校3年生相当までの12

年制となっているほか、幼稚園 (pre-kindergarten, kindergarten) もある。授業料は学期ごとに支払うことができるが、登録料、試験料、入学料、施設料は一括払いする必要がある。それらの年額は1人につき(幼稚園～高校3年生)約15,000米ドルである(2010年8月再開時)。授業料は、現金あるいは銀行送金で支払う(詳細はイエローページを参照)。授業はすべて英語で行われ、入学前に簡単な英語の試験を受ける必要がある。英語を母国語としない子女は、特別な英語教室(ESL)の利用が可能である。そのほか、Pakistan School(パキスタン・スクール:ヤフル地区、英語)、アレppoにICARDA国際ナショナル・スクールがある。

(4) 幼稚園

日本人は、Damascus Community Schoolの幼稚園やレインボー幼稚園、メッセ地区にあるワークショップを利用している。

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

日本語補習校に、図書室が設けられている。日本人の幼稚園児から中学生を対象に開かれており、絵本、童話、文学集、伝記集、百科事典、図鑑類などを随時利用できる。また、日本大使館でも日本語書籍を貸し出している。

国立アサド図書館では、アラビア語、英語、フランス語などの図書を多く所蔵しており、一般市民に開放している(メンバー制:登録には証明書用写真2名と、パスポート・滞在許可証(写)、200シリアポンドが必要)。日本語の図書はない。

15. 家庭の使用者



15-1 一般事情

シリアの人々の間では、家政婦/夫や子守を雇うのは一般的ではない。外国人の場合は一部の家庭で、シリア人や外国人労働者を通いで雇っている。外国人を雇う場合は、労働許可書や雇用契約でトラブルにならないように注意したい。運転手については、大半の在留邦人が自身で運転していることもあり、雇用するケースは少ないが、見つけることは可能である。

また、一般的にシリア人と日本人の労働に対する考え方や姿勢が違うので、何をどうしてほしいのかという要求を具体的に伝える必要がある。相互に理解し合うには、多くの時間を要する。

15-2 運転手

(1) 雇用

通常、私用車は持ち主自身が運転・管理しているが、個人の運転手を雇用することもできる。運転手を雇う場合は、知人、縁人のおつてや紹介などによる方法もあるが、斡旋会社を通すのが一般的である。

(2) 日常管理

英語ができるドライバーが少ないため、意思の疎通を図るには努力がいる。

(3) 教育指導

シリア人ドライバーの運転は一般的に荒く、時間についてもルーズなため、運転マナーと時間を守ることについては、当初から指導する必要がある。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

15-3 家政婦 / 夫**(1) 仕事の種類と人数**

掃除、洗濯、ベビーシッターなどの業務で必要なときに1人を雇用するのが一般的である。住み込みの例はほとんどない。シリア人、フィリピン系、スリランカ系の家政婦 / 夫を雇う場合が多い。

(2) 雇用

日本人家庭では、主に掃除、洗濯、ベビーシッターに限り、家政婦 / 夫の派遣事務所か知人、大家の紹介などを通して雇用している。毎週1~2回で、1回につき3~4時間、手当は1回(半日)につき700シリアポンド程度である。別途交渉次第で、皿洗い、料理なども依頼できる。1カ月単位での雇用も可能である。外国人労働者を雇う場合、労働ビザ等の登録に係る費用(約3,000シリアポンド)をこちらから派遣事務所に対し支払う場合がある。

小さな子供がいる家庭では、英語ができるベビーシッターがいると助かる。ただし、英語が話せるかどうかで時給が変わることもある。

(3) 日常管理

いたずらにでき心を起こさせないように金品の管理には注意する必要がある。仕事の結果に満足できない場合は、その都度きちんと指導するように心がける。ラマダン明けには、給与1カ月分程度のボーナスを支給することが多い。

15-4 庭師、ガードマン

庭師は、必要に応じて年に数回依頼したり、週に数回(定期)の契約をしたりと、家庭によって様々である。仕事は庭の清掃と水まきなどで、本格的な技術がある人は少ない。なお、在留邦人の大半は集合住宅に居住しており、自宅に庭がある一軒屋に借家する例はほとんどない。

ガードマンの雇用はオフィスや官庁などの建物ではあるが、一般家庭ではほとんどなく、また治安も良いため必要性は低い。

16. メディア



16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

シリアの国営通信社には、Syrian Arab News Agency (SANA) があり、ホームページもアラビア語、英語などがある。数年前までは、新聞はすべて官製であり、民間による通信社や新聞社はなかった。最近は民間の会社も存在している。「Syria Times」(英語紙)、「アッサウラ」「アルバース」「ティシュリーン」(3紙ともアラビア語紙)「アルワタン」(民間)などがある。

定期購読は、新聞社の窓口で年間購読料をシリアポンドで払う。

(2) 日本の日刊紙



購読申し込みは、日本またはロンドンのOCSで行う(詳細はPart3 イエローページを参照)。

(3) 欧米紙 / 誌

新聞では、「The New York Times」、「The Times」、「Le Monde」、「Le Figaro」など。日刊紙は、書店、スーパーマーケットで店頭売りしている。購読申し込みは書店で行う。

また、『TIME』、『Newsweek』、『The Economist』などの週刊誌や、『Reader's Digest』なども、店頭売りしている。

(4) 日本の雑誌、書籍

日本の雑誌、書籍を購入できる書店はなく、インターネット書店、OCSなどを利用して購入することになる。OCS便(郵便ではない)はJICA事務所に届けられ、各戸への宅配サービスはない。

インターネット書店では、Amazon、クロネコブックサービス、紀伊国屋書店、BK1等で、シリアへの発送が可能となっている。送料は、普通の航空便、船便での送付が出来るBK1が比較的安価である(新書10冊で普通の航空便を利用して、送料が2,000円～3,000円、発注から10日間ほどで到着)。

16-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ放送(国営)がある。

(2) NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

周波数が変わることがあるので、日本大使館の掲示物を参照のこと。

<ラジオジャパン問い合わせ先>

・NHK 国際放送局国際編成部

所在地: 〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話: 海外から: +81-3-3465-1111 (平日 / 日本時間 10:00 ~ 19:00)

日本国内から: 0570-066066

(NHK 視聴者コールセンター / 24 時間受付)

E-mail: info@intl.nhk.or.jp

・周波数表、番組表

URL : http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

FAX : +81-3-5454-0888 情報番号 260

(日本語放送の周波数表・番組表 FAX サービス)

郵送 : 返信用の90円切手を同封して上記NHK国際放送局国際編成部に
請求する。

(3) 聴取可能なその他の外国放送

VOA、BBC があり、アメリカ文化センター(所在地: アブルマーニ、電話:
011-3331878、FAX: 011-3321456)とイギリス文化センター(British Council)に、
最新のスケジュール表がある。モスクワ放送、近隣諸国(レバノン、ヨルダン、ト
ルコ、イスラエル、イラク、エジプト、サウジアラビアなど)の放送も聴取できる。
シリアでも高性能ではないが、短波ラジオを購入できる。

16-3 テレビ

(1) 地上波放送局

地上波のチャンネルは1局だけで、国営のシリアテレビ放送(国営)がある。アラ
ビア語放送、外国語放送もあり、日本のアニメーション、時代劇(アラビア語版)な
ども放映されることがある。放映時間は朝の8時から夜中までで、カラー放映であ
る。

(2) 衛星放送、ケーブルテレビなど

衛星チューナー及びアンテナは、外国人が借りる多くの住居に設置されている。
世界各国の放送(CNN、BBC、ALJAZEERA等)が受信可能で、その多くは無料
で視聴可能である。

日本語放送としては、JSTV(NHKと民放の混成番組)が視聴可能であるが、
一部の時間帯を除き、受信料は有料となっている(加入料150ユーロ、視聴料
50ユーロ/月)。

JSTV ホームページ : <http://www.jstv.co.uk/> (HP から申し込み可能)

(3) テレビ受信

受信方式は、SECAM方式は少なく、ほとんどがPAL方式である。衛星放送用
屋外アンテナを張ると、各国の放送が受信できる。

17. スポーツ、 趣味、 語学学習

**17-1 スポーツ**

日常生活でスポーツを楽しむという文化がないので、スポーツ施設などは少な
く、あったとしても利用できる季節や時間帯に制限が設けられていることが多い。
宗教上の理由から、女性が自転車に乗ることはほとんどない。

(1) ゴルフ

数は少ないが、ダマスカス郊外にゴルフ場がある。日本人が多く利用している

のはEBLA Cham Hotel(エブラシャーム)で、日本よりも使用料金が安い(詳細はPart3イエローページを参照)。

(2) テニス、フィットネス

在留日本人に人気があるスポーツは、テニスと水泳である。シリアではテニスは年間を通して楽しめる。水泳は月契約で使用できる屋内(温水)プールがダマスカス市内で5カ所ほどある。一日のみの利用は、ホテルのプールを利用するとよい。場所によっては、女性の遊泳時間が限られていたり、遊泳場所が男性と分けられていたりする場合がある。フィットネスクラブも、高級住宅地の周辺や高級ホテルにある。

バラムケ近くにあるティシュリーン・スポーツ公園の総合運動競技場では、さまざまなスポーツが楽しめる。テニスコートは、1時間350シリアポンドでハードコートが利用できる。プールは、1カ月2,000～4,000シリアポンド。ほかにもサッカー場、バドミントンコート、バスケットコートなどもある。ファイバー競技場、アッパーシーン競技場、ジェラー競技場などにも、テニスコートやバスケットコートなどがある。

(3) その他のスポーツ

その他のスポーツは、あまり活発ではない。

17-2 趣味

シリアでのスポーツ以外の余暇の楽しみ方には、旅行、習い事などがある。シリアでは多数の遺跡が各地に残っており、歴史好きではない人にとっても一見の価値がある。また、マルチプルの入出国ビザを有していれば、近隣国(エジプト、ヨルダン)や欧州諸国(飛行機で3-5時間、ウーンまでの往復航空賃が500ドル弱)への海外旅行も容易である。

ロシア文化センターのベリーダンス、ソシアルダンスの教室や、旧市街ではウード(アラブ特有の弦楽器、ギターに似ている)などの教室があるが、いずれにせよアラビア語での指導になるので、言葉が理解できないと習得するのは難しい。女性を中心に音楽活動も活発。

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

市内にはアラビア語(公用語、現地語)、英語、フランス語、スペイン語などの語学学校がある。料金は最近若干値上がりしているため、日本並みの価格のところもある。授業時間は、毎日あるものから隔週、午前、午後とさまざまである。

アラビア語、各国語の主な語学学校は、次のとおりである。

<アラビア語>

・ダマスカス大学内語学センター

< 各国語 >

- ・イギリス文化センター (British Council) : 英語
- ・セルバンテス文化センター (Insituto Cervantes) : 西語
- ・フランス文化センター (French Culture Center) : 仏語
- ・ロシア文化センター (Russian Culture Center) : 露語
- ・ゲーテインスティトゥート (Goethe Institut) : 独語

(2) 家庭教師

家庭教師による語学学習(アラビア語、英語)も可能である。学校に通うより費用は高くつくが、その分時間の融通がきき、働きながら勉強する人には向いている。日本人相手の料金は、1時間につき400～700シリアポンドが相場。英語での授業になる。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

外国人の国内旅行に一般的な関する規制は特にないが、クネイトラ県のゴラン高原やアレッポ県のジャバル・アル・ホス地域の立入には事前の許可が必要(手続きが変わることがあるので、都度、確認すること)。滞在ビザの有効期限を確認し、旅行中はパスポート、身分証明書を携行すること。地方の治安状況はよいが、宗教上保守的な地域(ハマ等)が含まれるため、服装・言動等は気をつけること。

18-2 主要観光地・保養地

主な観光ポイントは、ローマ時代、またはそれ以前の神殿や墳墓の遺跡、イスラム城塞、十字軍塞、イスラム寺院、教会、博物館、スークと呼ばれるバザール、海岸、内陸砂漠などである。

公共の交通手段としては、長距離バスがある。ただし、地域によってはバスターミナルから目的地までの交通の便が悪い上に、適当な宿泊設備がないので、できれば自家用車やハイヤーを利用するのが望ましい。

また、海外では、エジプト、ヨルダンといった近隣国、欧州諸国に短時間かつ安価で行けるため、ラマダン明け等の長期休暇時に、それらの国に旅行する在留邦人も少なくない。

主なシリア国内の観光地と観光ポイントは、次のとおりである。

< パルミラ: Palmyra (Tadmor) >

ポイント: ローマ時代の列柱道路、大神殿遺跡、アラブ城塞、ナツメヤシの森、墳墓群、博物館。

交通手段: ダマスカスからバスで約3時間(片道約200シリアポンド)。バス停から遺跡まで距離があること、アラブ城砦、墳墓群は遺跡から歩くには長い距離のため、タクシーを利用すると良い。

Yellow Page

宿泊: Zenobia Charm Hotel など(詳細は Part3 イエローページを参照)。

<ラタキア: Lattakia >

ポイント: ブルービーチ(海水浴)、ウガリットビーチ(海水浴)、サラールハッディーンの城塞(Qalaat Saladin)、ウガリット(象形文字遺跡)。

交通手段: ダマスカスからバスで約 5 時間(片道約 300 シリアポンド)。ラタキア近郊の観光地までは、タクシーを利用。

宿泊: Meridien Hotel, Riviera Hotel などがある。

<タルトゥース: Tartus >

ポイント: マルカブ城塞。

交通手段: タルトゥースの手前からタクシー、山頂までは徒歩。

<クラク・ド・シュバリエ: Krak des Chevaliers (Qalaat Al-Hosn) >

ポイント: シュバリエ城(十字軍の城)。

交通手段: ダマスカスからホムスまでバスで約 2 時間(片道約 200 シリアポンド)、ホムスよりタクシーを利用。

<ハマ、アパミア: Hama, Apamea >

ポイント: ハマの大水車、博物館、アパミアの古代都市遺跡。

交通手段: ダマスカスからハマまでバスで約 3 時間(片道約 200 シリアポンド)。アパミアまでは、ハマよりタクシーを利用。

宿泊: Apamea Cham Palace, Riad Hotel, Oriental House などがある。

<アレッポ: Aleppo (Halab) >

ポイント: アレッポ城(citadel)、スーク(市場)、考古学博物館、イスラム寺院(Great Mosque)、キリスト教地区。

交通手段: ダマスカスからバス、鉄道で約 4 時間半(片道約 300 シリアポンド)。ポイントは、市内に集中している。

宿泊: Beit Wakil(キリスト教地区の歴史的建造物)、Mirage Palace Hotel, Riga Palace Hotel, Sheraton Hotel などがある。

<セントシモン: St.Simeon (Qalaat Samaan) >

交通手段: アレッポからタクシーを利用。

<カサブ: Kassab >

ポイント: 日本の吉野のような深い森、避暑地。月桂樹石鹸の産地。

交通手段: ラタキアからタクシーを利用する。

備考: 冬季、ホテルは閉鎖される。

<サウラ: Ath-thaura >

ポイント: ユーフラテスダム(Lake Al-Assad)、ジャアバル城(Qalaat Jaabar)。

交通手段: サウラまでバス、鉄道、その後はタクシー。

<ザバダニ、ブルダーン: Zabadani, Bloudane >

ポイント: ダマスカス近郊の避暑地。3 月頃に杏の花が咲き乱れる。

交通手段: ダマスカスからタクシー、セルビスで、約 1 時間。

< ボスラ: Bosra (Bosra'l'sham) >

ポイント: ローマ円形劇場、地下スーク。

交通手段: ダマスカスからバスで約 2 時間。

< マアルーラ、セドナヤ: Maalula, Seydnaya >

ポイント: 原始キリスト教会、ハイキング。

交通手段: ダマスカスからマイクロバス、またはタクシーで、約 1 時間。

< スウェイダ: Suweida >

ポイント: モザイク博物館。

交通手段: ダマスカスからバスで約 2 時間。

18-3 旅行代理店

主な旅行代理店は以下のとおりである。パックツアーの料金は法外に高いので、何人かで 1 台の車を借りるか、長距離バスや自家用車を利用し、自分で旅をアレンジしたほうがよい。ユーフラテス川ミニクルーズ、マアルーラ・セドナヤ日帰りツアー、パルミラ・ラクダ excursion、ダマスカス 1 日ガイドツアーなどのパックツアーもある。

・Sunlight Travel & Tourism

・Nahas Travel & Tourism

19. 私財の輸送、 引き取り、購入



19-1 家財道具

(1) 輸送会社

該当情報なし。

(2) 輸入手続き

アナカンの引き取りに必要な書類は、Airway Bill、航空会社からのアナカン到着通知、パスポート、免税措置を受けるための協定である。それらの書類を持参して空港貨物倉庫へ行き、自分の荷物を探し出す。その際、内容品の抜き打ち検査がある。その後、空港税関長の引き取り許可を受け、税金、保管料などを支払って引き取り終了となる。

なお、空港税関で作成される書類はすべてアラビア語であるなど、アナカンの引き取りの過程はかなり煩雑なため、輸送会社を通すのが賢明である。

(3) 輸入貨物の受け取り港

海上輸送の場合はLattakia(ラタキア)港またはTartus(タルトゥース)港、航空輸送の場合はダマスカス国際空港が受取地となる。ただし、配送先の国内各都市までは通常、輸入会社が配送を行う。

(4) 家具購入

通常、賃貸住宅の備え付け家具に含まれているので、特に購入する必要はない。退去時も家具を残していく場合が多い。

19-2 自動車

(1) 一般状況

シリアでは、1990年代に入って急速にモータリゼーションが進んだ。ヨーロッパ車、日本車、韓国車などの新車も見られるようになったが、製造後20年を超える車も数多く走っている。また、公共交通やタクシーを安全に利用出来ること、生活の多くは徒歩圏内で済むように出来ることより、自家用車がなくとも不便に感じることはなく、購入は必須ではない。

(2) 輸入手続き

該当情報なし。

(3) 現地での購入

該当情報なし。

(4) 自動車登録

車両登録は、1年ごとに更新しなければならないので、事務代理の会社に任せるのが賢明である。車両登録更新時に、テクニカル・インスペクションを受けることになっているが、エンジン番号、車体番号などの確認を受ける程度である。

なお、ナンバープレートの種類は次のとおりである。

- ・黄色に黒文字：持ち帰りを条件に輸入された車両
- ・白色に黒文字：一般車両
- ・白色に赤文字：営業車両（タクシーなど）
- ・白色に緑文字：公用車、軍
- ・青色に黒文字（縦に赤ライン）：シリアとの合弁外国企業
- ・白色に黒文字（縦に赤ライン）：外交官
- ・白色と青色の半々：レンタカー
- ・青色に白文字：UNDOF、UN関係

(5) 免許証取得

国際免許証で運転することはできるが、シリアでの免許証を取得するのが望ましい。現地での免許取得には、日本の免許証（国際免許証でも対応可能であるが、日本の免許証が望ましい）を持参し、日本大使館で翻訳証明書を作成してもらい、自動車学校で各種試験に合格し、視力検査に通れば取得できる。ただし、入国後3か月間は免許はつけない。

(6) 保険、税金

保険会社は、数年前まで政府機関の Syria Insurance Co.のみであったが、最近では民間の保険会社も設立されている（2～3社）。保険の種類と保険料は、次のとおりである。（Syria Insurance Co.）

- ・強制保険：年間 3500 シリアポンド
- ・その他の保険：年間 2000～4万 5000 シリアポンド（車両の重量、またはモデル、年式による）
- ・対象無制限：簡易裁判で決定した金額

- ・対人無制限:簡易裁判で決定した金額
- ・同乗者保険:1人につき最高10万シリアポンド
- ・車両保険:査定に基づく金額

加入申し込みは、手続きを代行するエージェントを通して行う。掛け金は、現金で支払うことになる。

事故の際は、保険を申し込んだエージェントと警察へ連絡し、警察から事故証明書を発行してもらう。警察の事故証明がない場合は、最高3000シリアポンドまでしか支払いを受けられないので、注意すること。

20. 地方都市



歴史的に商業の中心地であったAleppo(アレッポ)、内陸部重工業地帯のHoms(ホムス)、古都Hama(ハマ)、地中海沿いの港湾都市Lattakia(ラタキア)とTartous(タルトゥース)農業の中心地Al-Hasakah(ハツサケ)、Ar-Raqqah(ラッカ)、東の玄関であったDair Ez-zor(デリゾール)、南の要所Dara'a(ダラア)、ドルーズ教徒の多いSuweida(スウェイダ)など、特色ある地方都市がある。

Part 3 イエローページ

特に記載がない限り、JICA事務所のあるダマスカスの情報を中心に掲載しています。

1. JICA事務所

所在地	No.28 Al Mahdi Bin Baraka, St., Abou Rommaneh, Damascus, Syria
郵便物宛先	JICA Syria Office, P.O.BOX 10012, Damascus, SYRIA
TEL/FAX	+963-11-3339359/3336858 FAX:+963-11-3334834
URL/E-mail	URL: http://www.jicasr.org , http://www.jica.go.jp/syria/index.html E-mail: jicasr@jica.go.jp

2. 日本大使館

所在地	No.3537 Sharkasiya, Aljala' St. Abou Rommaneh, Damascus (アブルマーニシャーリーヤライース) (B.P. 3366)
TEL/FAX	TEL: 011-3338273

3. 緊急連絡先電話番号

日本大使館	TEL: 011-3338273
警察	TEL: 112
消防	TEL: 113
救急車	TEL: 110

4. ホテル

*シングル=S、ダブル=D *使用できるクレジットカード(CC): A: American Express, D: Diners, J: JCB, M: MasterCard, V: VISA.

■ Dedeman Hotel (デデマン・ホテル)

Al-Kouwatli Ave. (アル・クワトリ通り)
TEL: 011-2229200 FAX: 011-2233303
URL: http://www.dedeman.com/damascus.aspx
使用できるクレジットカード: A, D, J, M, V
高級シリア料理店、カフェテリア(朝、昼、晩にそれぞれ日替わりビュッフェやアラカルトを出す)、屋外レストラン、西洋料理店(フランス料理、イタリア料理)がある。単身者の長期滞在可。

■ Cham Palace Hotel (シャーム・パレス・ホテル)

Maysaloun St. (マイサルーン通り)
TEL: 011-2232300 FAX: 011-2226180
URL: http://www.chamhotels.com/palace_damascus.html E-mail: chamresa@net.sy
使用できるクレジットカード: A, D, J, M, V
最上階の回転レストラン(シリア料理、西洋料理)、カフェテリア(朝、昼、晩にそれぞれ日替わりビュッフェやアラカルトを出す)兼イタリア料理店、中国料理店(昼、夜)がある。そのほかに日本料理店フジヤマがあり、鉄板焼、天ぷらなどのメニューがある。

■ Sheraton Damascus Hotel (シェラトン・ホテル)

Omayad Sq. (ウマイヤドスクエア)
TEL: 011-2229300 FAX: 011-2243607
URL: http://www.sheraton.com E-mail: chamresa@net.sy
使用できるクレジットカード: A, D, J, M, V
高級シリア料理店、イタリア料理店、カフェテリア(朝、昼、晩にそれぞれ日替わりビュッフェやアラカルトを出す)、プリティッシュパブがある。

■ Four Season Hotel (フォーシーズン・ホテル)

Shukri Al Quatli St. (シュクリ・アル・クワトリ通り)
TEL: 011-3391000 FAX: 011-3391009, 011-3391077
http://www.fourseasons.com/damascus/
使用できるクレジットカード: A, D, J, M, V
高級シリア(アレppo)料理店、イタリア料理、カフェテリア、日替わりビュッフェ(寿司・刺身食べ放題もある)がある。

■ Omayad Hotel (ウマイヤド・ホテル)

Brazil Ave. (ブラジル通り)
TEL: 011-2217700 FAX: 011-2213516
使用できるクレジットカード: A, D, J, M, V
シャーム・パレス・ホテルの近く。町の中心に位置しているので利用しやすい。

■Semiramis Hotel(セミラミス・ホテル)

Victoria Bridge(ピクトリア橋)

TEL:011-2233555 FAX:011-2216797

URL:http://www.semiramis-hotel.com E-mail: semiramis@net.sy

使用できるクレジットカード:A、D、J、M、V

中国料理店(昼、夜)がある。

5.不動産会社

■Mohammad Mozeh

Abou Roumaneh

Mobile: 093-216526

6.クリーニング店

■Snow White

TEL:011-6120346(メッセ地区)、011-3330819(アメリカン・スクールそば)

営業時間:8:30~21:00

市内各所にある。回収、配達も可能。毛布やカーペットなどのクリーニングも受け付ける。

7.美容院・理容店

<美容院>

■Angels Al Mahdi Bin Barake St.(マルキ地区)

TEL:011-3343821

カットのみ300シリアポンド、カット+ブロー500シリアポンド。

■Jacques Dessange

シャーム・パレス・ホテル内3階

TEL:011-2232300

フィットネスクラブの隣。カットのみ500シリアポンド、カットブロー1000シリアポンド。

<理容院>

■シブキシャーラン地区

TEL:011-3311217

シブキ公園の近く。髭剃り、シャンプー付きで100シリアポンド。英語不可だが日本人が多く利用している。

8.レストラン・喫茶店

●旧市街

<アラブ料理>

■Jabri House

Omayyad Mosque近く

TEL:011-5416254/5443200

内装は古い家屋を生かしたアラブ風のつくりになっており、外国人観光客も多数来店している。夜中の12時ごろが最も混んでいる。

■Omayyad Palace

Omayyad Mosque近く

TEL:011-2220826/2235018 FAX:011-2248901

観光客向け、ビュッフェ式アラブ料理。夜はスーフィーダンスが見られる。

■Oriental Restaurant

Bab Charqi近く

TEL:011-5431324

クラシックなアラブ料理が堪能できる。アルコールも置いてあり、値段は少し高め。

■Elissar

Bab Rome近く

TEL:011-5424300

クラシックなアラブ料理が堪能できる。2階では水タバコ(アルギーレ)が楽しめる。値段はやや高い。

■Arabesque

Bab Rome近く

TEL:011-5433999

アラブ料理 + 西洋料理。イタリアン、フレンチが充実している。

■Casablanca

Bab Charqi近く

TEL:011-5434814

アラブ料理 + フランス料理。インターナショナルな食事が堪能できる。店内は清潔で雰囲気もよい。

< イタリア料理 >

■La Guitare

Bab Charqi近く

TEL:011-5419823

ひととおりのイタリアン料理が揃っている。適度な硬さのパスタもある。

●市中心

< アラブ料理 >

■Al-Kamal

ツーリスト・インフォメーションの隣

TEL:011-2323572

大衆アラブ料理。ボリュームたっぷりのアラブ料理をとことん満喫できる。大衆向けなので料金も良心的。

■Ali Baba

Sham Palace Hotel近く

TEL:011-2225434

大衆アラブ料理。上の階にある系列レストランのAb-Kamalでも同じ料理を食べられるが、こちらの店のほうが料金は安め。

< イタリア料理 >

■La Fontana

メッセオートストラード沿い

TEL:011-6115268

ピザもパスタもおいしく、在留イタリア人がよく通っている。店内の雰囲気も洒落ていて落ち着いたムードがある。

< 中国料理 >

■Canoun メッセ地区

TEL:011-6116967

少しわかりづらい場所にある。酢豚はないが、酢牛、酢鶏があり、マーボー豆腐もおいしい。シェフが中国系の人なので味は確か。

< 日本料理 >

■S.O.S Sanabel

Al Kassaa地区

TEL:011-4449689

寿司 + イタリア料理。サーモン、ツナ、タコなどの寿司や刺身が食べられる。値段は高めである。

■Vendome Cafe (ヴァンドム食堂)

Abou Rommaneh

TEL:011-3333137

< シリア料理 >

■Orient Club

シャーム・パレス・ホテル近く

TEL:011-2213004

高級アラブ料理。前菜、デザートは日によって違う。

■Noble Palace Restaurant

ウマイヤドスクエア近く

TEL:011-2246164/2216397/2234742

高級アラブ料理。内装はロココ調で、各種レセプション会場になる。

■Chevalier レストラン街

TEL:011-3333574、094-307773(携帯電話)

シリア料理 + 西洋料理。エスカルゴ、シーフードがおいしい。

■Chaumiere レストラン街

TEL:011-3338883

シリア料理 + 西洋料理。

●新市街

<喫茶店>

■Aroma cafe

シャーラン地区

TEL:011-3337356

シリアの芸能人もよく訪れる洒落たカフェ。サンドイッチ、デザート類の種類も豊富でおいしい。

■Le Gourmet

デデマン・ホテル内ロビー横

TEL:011-2229200

クロワッサン、バゲット、ミルフィーユがおいしい。

■La Noisette

マルキ、イーストメッセ、シティーモールなど

TEL:011-3735952

ピザ、サンドイッチ、クレープがおいしい。パン、ケーキは持ち帰りできる。

9. 食材店

■Bader(バダー)

シャーラン地区

TEL:011-3336785

営業時間:10:30~21:00ごろ(金曜日定休)

日本食品の取り扱いが多いが、賞味期限が切れているものが多い。

■Hamadah(ハマダ)

ウェストメッセ地区

TEL:011-6132371

営業時間:10:30~22:00ごろ(金曜日定休)

レバノンからの輸入品が多数あり、高価だが日本食材も何点がある(豆腐が購入可)。

10. 家具店

■DELTA(デルタ)

メッセ地区

TEL:011-6131518 FAX:011-6111812

オートストロード通り沿い。イラン大使館の近くにある。イタリアンデザインの家具が豊富。ただし、製造はシリア。

11. 金融機関

■BSO(Bank of Syria and Overseas)

Al-Harika Bab Barid-Lawyers retirement bldg

TEL:011-2460569/2460560 FAX:011-2460555

E-mail:bsomail@bso.com.sy

12. レンタカー会社

■Europcar

デデマン・ホテル内

TEL:011-2120624/2124946 FAX:011-2111304

E-mail:europcar@net.sy

ホテル内にあるので何かと便利で、英語の通じるドライバーも多い。長期利用はディスカウントあり。

■Chamcar

シャーム・パレス・ホテル近く

TEL:011-2216615 FAX:011-2226181

E-mail:hertz@mail.sy

Hertzの代理店。

13.自動車修理工場

■AI IMAD

カダム地区

TEL:011-6350084

トヨタ、プジョーなど、いずれの車種も修理可能。

14.インターネット・プロバイダー

■SCS-NET (Syrian Computer Society)

ティシュリーン公園内

TEL:9981 FAX:011-3731170

URL: <http://www.scs-net.org/> E-mail: customer-care@scs-net.org

政府系プロバイダー。

15.国際宅配サービス会社

■ARAMEX

Al-Hamla St.

TEL:9794, 011-3312179

日本までの料金(目安):最初の1kgが650シリアポンド、その後1kgごとに500シリアポンド付加される。
集配サービスが取りに来てくれる。

16.教育機関

<日本語補習校>

■ダマスカス日本語補習校

連絡先・郵便送付先:日本大使館気付

TEL:011-3332082

入学手続き:父兄が日本人会に入会することが条件。

入学金:20米ドル

授業料:小・中学校は1カ月50米ドル。

通学手段:徒歩、または自家用車で送迎。

授業は毎土曜日の10:30~16:30。新学期は4月から。夏休みは7~8月。

<外国人学校>

■Damascus Community School

Al Mahdi Bin Baraka St., Damascus

TEL:011-3337737/3310331 FAX:011-3321457

E-mail: dcs-dam@net.sy

登録料:300米ドル 試験料:200米ドル 入学金:600米ドル

授業料:保育園 4250米ドル/年、幼稚園~小学5年 1万600米ドル/年、小学6年~中学2年 1万1700米ドル/年、中学3年~高校3年1万2700米ドル/年。

施設料:1500米ドル

授業は9月開始で2学期制。夏休みは6月中旬~8月末。休校日は金・土。通学手段はスクールバス、自家用車、タクシーなど。2010年8月現在、閉鎖中。

17.図書館

■国立アサド図書館

ウマイヤドスクエア近く

TEL:011-3320806

開館時間:9:00~20:00

本の貸し出しは行っておらず、館内での利用のみ可。利用に際しては、図書利用カードをつくる必要がある(要顔写真。カードがつけられる時間は9:00~13:00)。図書館の年間利用料は200シリアポンド。

18.新聞・雑誌の購読

■海外新聞普及(株)(OCS)輸出購読サービス

〒108-8701 東京都港区芝浦2-9-13

TEL:03-5476-8131 FAX:03-3453-8091

URL: <http://www.ocs.co.jp/> E-mail: subs@ocs.co.jp

■OCS EUROPE LTD

5th Floor, 50 Southwark St. LONDON SE1 1UN

発刊日から5~7日でP.O.Box(郵便)に届けられる。宅配はない。ロンドン申し込みの購読料は半年で約328英ポンド。日本国内でも契約できる。

19.スポーツ施設

<ゴルフ>

■EBLA Cham Hotel

ダマスカス郊外

TEL: 011-2134020 FAX: 011-2134026

料金はグリーンフィー、パウチャー、食事券付きで70米ドル。クラブなどのレンタルも可、キャディーも頼める。

20.語学学校

<アラビア語>

■ダマスカス大学内語学センター

TEL: 011-2129850

通称マルカズ。ウマイヤドスクエア近く、オートストロード通り沿いにある。公用語(フスハー)の授業あり。1ターム1か月で1万シリアポンド。週5日、9:00~13:00。授業はアラビア語で進められるが英語も通じる。欧米からの留学生が多い。同センターでは現地人向けの日本語、英語の授業もある。

<英語>

■イギリス文化センター(British Council)

Shaan, Maysaloun St.

TEL: 011-3310631 FAX: 011-3321467

URL: <http://www.britishcouncil.org/syria> E-mail: general.enquiries@sy.britishcouncil.org

在留日本人もよく通っている。週3日×7週間で9000シリアポンド(教科書代込み)。改装したばかりなので、建物がきれいである。

21.地方のホテル

<パルミラ: Palmyra (Tadmor)>

■Palmyra Cham Palace

Damascus St.

TEL: 031-912231/912230 FAX: 031-912245

使用できるクレジットカード: American Express, MasterCard, VISA

■Zenobia Hotel

TEL: 031-910107 FAX: 031-912407

パル神殿に近い。

<ラタキア: Latakia>

■Meridien Hotel

Queen Zein St.

TEL: 041-428736 FAX: 041-428732

■Riviera Hotel

14, Ramadan Ave.

TEL: 041-421803 FAX: 041-418287

<ハマ、アバミア: Hama, Apamea>

■Apamea Cham Palace

Hama

TEL: 033-525335 FAX: 033-511626

■Riad Hotel

Al-Kouwatli St.

TEL: 033-239512 FAX: 033-517776

<アレッポ: Aleppo (Halab)>

■Beit Wakil

Sissi St., Jedaideh

TEL:021-2217169 FAX:021-2247082

■Shahba Cham Palace Hotel

Damascus Road

TEL:021-2270100 FAX:021-2270150

■Amir Palace Hotel

Bab Djenine St. / Al-Rayes Sq.

TEL:021-2214800 FAX:021-2215700

22.旅行代理店

■Global Villeage

Bashkateb-Muhajreen

TEL:011-3711963

営業時間:10:30ごろから

■Nahas Travel & Tourism

Al-Fardoos St.

TEL:011-2232000 FAX:011-2232006

E-mail:sales@nahastt.com

営業時間:10:30ごろから
